

統計行事

市町村

- (二月)—
- 會社票 十日限報告
 - 園藝農産物果實ノ一全
 - 蔬菜花卉ノ三 末日限報告
 - 蠶 網 全
 - 藻 製 品 全
 - 乳肉製品及罐詰 全
 - 公有造林用苗木 全
 - 林野産物 全
 - 公有林野被害 全
 - メリヤス製品 全
 - 帽子、陶磁器、瓦及土管、漆器製革、皮革製品、植物油、木製品、竹製品、藤製品、柶柳製品、刷子刷毛 全
 - 麥稈經木及麻真用 全
 - 蠶表裏蔭及花疋 全
 - 農作物被害調査表 全
 - 質屋ノ貸金 全

- (三月)—
- 質屋ノ金利歩合 全
 - 工場 票 全
 - 各種工産物其ノ一 全
 - 其ノ二 全
 - 其ノ三 全
 - (三月)—
 - 工藝農産物其ノ一 末日限報告
 - 公有林野人工造林全
 - 全 天然造林 全
 - 私有林伐採 全
 - 各種工産物其ノ一、全其ノ二、全其ノ三 全
 - 市町村統計費補助申請全
 - 米生産統計費 全

統計調査員

- (二月)—
- ミカンノ調査報告 三日限報告
 - 二月末限市町村長ヨリ報告スベキ各種製品報告十五日限報告
- (三月)—
- 公有林野人工造林、全天然造林
 - 公有林野伐採報告十五日限報告
 - 春季調査ノ準備(作付段別調査票ノ欄外記入) 十五日限

春の調べ

茨城統計(一月號目次)

◆表紙……弘道館公園八卦堂

◆口繪……勅題「田家雪」……本邦統計の開祖杉博士の書簡及郵便
……大池田、志士庫、若松各村調査員の統計視察

卷頭言……………【一】

年頭の感……………茨城縣統計協會長 山本秋廣……………【二】

統計茨城を守れ……………茨城縣統計協會副會長 川崎末吉……………【四】

耕地統計論……………茨城縣統計課長 畑健二……………【六】

統計模範……………八幡と菊に名高き大寶村……………【四】

町村訪問記……………更生の模範たる國分村……………【七】

米の調査を願みて……………【七】

實務統計調査の栞……………【三】

各地統計雜信……………【三】

最近の統計

蟲の口から千七百五十萬圓……………【四〇】

躍進茨城殖える人口……………【四一】

各町村別世帯及人口……………【四四】

夏の王様は西瓜の七千萬貫……………【四九】

ニハトリとアヒル本縣の地位……………【一九】

アテにならない數字……………【三七】

讀者欄……………常春の房州へ……………久賀村調査員 關野忠吉……………【五〇】

新宿御苑拜觀の記……………南川根村書記 小沼義男……………【五三】

編輯後記……………富岡福壽朗氏討……………【五五】

◆統計主任者異動……………【三九】

◆調査員異動……………【三九】

◆寄贈圖書……………【六一—〇一—五】

文苑……………短歌……………丹四郎選……………【五八】

俳句……………前田猶春選……………【五八】

川柳……………山中緋郎選……………【六〇】

編輯後記……………【六一】



茨城統計月一號

卷頭言

年頭に際し謹みて聖壽の萬歳を壽ぎ奉り、併せて國運の隆昌、誌友の御健康を御祈りいたします。

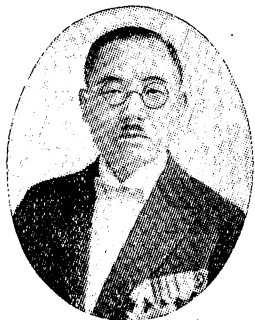
本誌も茲に三回目の新年號を發刊することとなりました。僅かに滿二年の経過ではありますが其の内容も號を逐ふて改善せられ、誌友もますます増加し、堂々たる統計機關雜誌となりました。

本縣の統計を顧みますれば、昭和三年に現調査方法が制定され、翌四年から實施されたのでありますから僅かに八ヶ年の経過であります。此の僅かの間に誇り得る現在の成績を収めることが出来たのに比すれば本誌の發展もあへて異とするにも及びますまい。

それもこれも三百八十市町村の統計係員、三千九百名の統計調査員の調査に對する一致團結のため、團結の力の如何に偉大なるかをしみるゝと感ぜられました。

『暗夜に燈臺、政治に統計』の標語のあるとほり政治と統計の關係は頗る密接で、統計の使命は益々大を加へつゝあります。昭和十二年の新春に當り、我々は、統計をより正確ならしむるに更に精進する御約束をしようではありませんか。

本年四月には縣内大部分に市町村會議員選舉が行はれますが、市町村の指導的立場にある調査員諸君は、今度こそ、全くの肅正選舉が行はれます様、此れにも切角御努力あらんことを切望致します。



年頭の感

茨城縣統計協會長
茨城縣總務部長

山本秋廣

年改まり、茲に皇紀正に二千五百九十七年、昭和十二の新春を迎へ、新たな陽光を拜するに際し、誌友各位と共に恭しく聖壽の無窮を壽ぎ奉り併せて國運の隆昌を祈ることを得ますのは、私の深く光榮とする所であります。

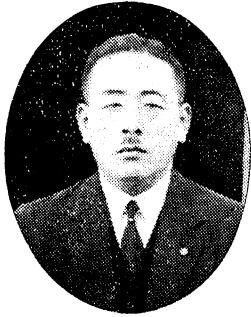
惟ふに我が國の情勢は、今や、頗る多事多端、愈々其の深刻を感ぜらるゝ次第でありまして、即ち、外に於きましては海軍無條約の第一年に達したるのみならず、左右兩思想の對立に因る西歐の兵變、隣邦支那に於ける各種勢力の交錯等、國際的危険をさへ多分に感ずるものがあり、内に於ては各種の情勢に伴ひ、未曾有の龐大なる豫算を編成せざるの已むなきに至り、國民生活の安定との均衡等、相當難問題に逢着して居るのであります。併し乍ら、如何なる難關をも征服すると云ふ、古き歴史と、傳統を有す

る我が國民は、必ずや此の非常時をも克服することは、確信して疑はぬものであります。斯く時局が複雑となるに従ひ、統計に對する要望も亦愈々切實を加ふるものでありますから、我々統計に従事する者としては、其の調査したる統計が、如何なる方面に如何なる状態に利用されつゝあるか、其のよつて來る所を認識せられ、萬全を盡して國家有用なる資料の蒐集に努めねばなりません。

又本縣と致しましては、本年四月より縣内殆んど全部の市町村に、市町村會議員選舉が施行せられますが、統計調査員は一昨年の縣會議員選舉、昨年の衆議院議員選舉に於きましても、法に觸るゝが如き者を出さざるのみか、却つて肅正委員として之が目的の達成に付、格段の努力を致されましたことは感謝に堪えない所でありまして、大いに敬意を拂つておる次第であります。

今回の選舉に於きましても、一層、御盡力を煩はしまして、切角、好き傾向を招來致しました選舉肅正の實績を、遺憾なく收めまして、地方自治體運営の基礎を益々鞏固ならしめ、憲政の美を濟さしむべく切望して止まざるものであります。

終りに、統計關係者一同の健康を祝し、益々其の多幸を祈ると共に、本縣統計の發展を期する次第であります。



統計茨城を守れ

―年頭の御挨拶―

茨城縣統計協會副會長
茨城縣統計課長

川崎末吉

年頭に際し謹みて聖壽の萬歳を壽ぎまつり、併せて國運の隆昌、誌友各位の御健康をお祈りいたします。

今更申上ぐるまでもなく、本誌の誌友各位は殆んど全部と申上げて宜しい程、大部分が常に農村指導の地位に立ち、農民層の中樞をなして居るのであります、更に語をかへて申しますれば、わが茨城縣は全國でも有數な農業縣でありまして、農民層の中樞をなしてをる各位は取りもなほさ茨城縣の中樞をなして居るのであります。

天皇陛下におかせられては、申すも恐多いことでは御座います、特にわれ／＼農民の爲めに大御心を垂れさせ給ひ、勅題にも『田家雪』をお撰びになられたと拜察し奉る、蓋し『田家雪』とは農家の雪といふ意味にて、昨秋の豊作を御満足に思召さるゝ御聖慮のほとと長くも長く、如何にわが農村の爲に、大御心を費し給ふかを拜察するだに畏き極みである。

願みれば昨年は、恰も節分會に際して晝より夜にかけて近年稀なる大雪あり、雪より出で、雪にかくるゝ山國の異風景を眼のあたりに見たのであります。無論雪害を被つたところもあります、古來雪は豊年の瑞兆と申され

て居ります通り、其の後の天候は頗る順調に經過し、近頃には無い豊作を我等が統計の上にも現はし得ましたのは誠に喜ばしいことであります。

更にまた統計關係におきましては、今回政府に於ても統計事業の重要性に鑑み、益々其の完璧を期すべく、關係者選奨の規定を設け、功績顯著なる者に對し昨年三月はじめて農林大臣賞なるものを授けました。本縣におきましても此の名譽ある選奨に預つたもの十二名の多きに達し、千葉、長野と共に全國の最高位を占め得たのであります。次に昨秋行はれました勞働統計實地調査においては、全國のトップを切つて第一位を占め、その他統計協會の擴充、映畫講演の施設、機關誌の充實強化、統計關係各位の親睦等々、名實共に備はり、今や統計界の第一人者になり得たと申上げても過言でなからうと思ふのであります。

と、同時にわれ／＼はこれがために大いに考へ、これがために一層深刻に鞭撻を続けるやうさせられたのであります。我が茨城縣が斯くして統計界に異常なる成績を挙げ、たとへ第一人者たるの誇りを稱し得ましても、輕々にこれに安んじ、これに甘んじたりしてはならぬのであります、第一人者には第一人者たるの責任がなければなりません、體面も考へねばなりません、愈々、益々奮闘努力して共々に統計の完璧を期し、縣下三百八十の市町村が、悉く依然として事業を展べられ、縦から觀ても、横から觀ても一点の非點なく、斷然統計茨城を謳はるゝやう心掛ければなりません、年頭に際して特に統計關係各位の深甚なる考慮を煩はす次第であります。

翻つて思ふに日支、日ソの關係は益々複雑を極め、交抄まことに多端なるものあるを感じられ、鞏固なる國策樹立のために我等の統計は一層重大なる意義を有ち、我等の責務の極めて重要なるを痛感されるのであります。以上をもちまして年頭の御挨拶を兼ね、所懐の一端を申上げ、新たな年の新たなる活動に意義あらしむるやういたしたいと存じます。



官計統畑長

耕地統計論

【2】

農林省統計官 長畑健二

第四節 耕地に関する調査事項

耕地に關して何を調査すべきであるかは、耕地統計を利用する目的によつて異なること勿論で、抽象的に之々を調査すれば宜しいといふ様なことは言はれない。併し如何なる事項を調査するにしても、其の調査は可能なものでなければならぬし、又正確なる結果の得らるゝ種類のものでなければならぬ。而して一般に統計調査に於ける單位に關する調査事項は、大別して二つとすることが出来る。

一は單位を洩れなく把へ、又は標識の調査を完全ならしむる爲に調査する事項であり、一は標識そのものとして調査する事項である。前者は人口調査に於ては氏名の如きものであり、耕地の調査では地番の如きはこれに該當する。地番は毎筆別に之を付けてあるのであるから、人間に於ける姓名の如く個體(單位)を相互に區別する符號である。即ち土地の賣買、貸借等に於ては、其の法律行爲の對象たる土地を表現するに當つて、總て地番を用ひて居るのであるから、調査の重複、脱漏を防ぐには是非必要な調査事項である。昭和四年九月の耕地調査に於て之を調査事項に加へた理由は全く茲に在る。

一、利用上より觀たる耕地の種類

同じく耕地と言ふも、之を水田として利用するのと、果樹畑として利用するのでは、其の社會的意義を同じくしない。社會に在る耕地の總量が幾何なりやを知ること極めて肝要なること論を俟たぬ所であるが、其の耕地の利用狀況が如何になつて居るかを知ること必要なる事である。

而して耕地の利用には、其の年限りの一時的な利用と、恒久的利用とがある。一時的なる利用は作物の種類を變更する程度であつて、別に問題とする程ではない。寧ろ恒久的利用が問題である。即ち一定年數のあひだ使用目的が固定することは、そのことが或る意味に於て其の土地の屬性を決定することとなる。恒久的利用に依る分類として第一に擧げねばならぬのは、我國に於ては田畑の別である。

(イ) 田と畑の區別

我國の耕地に於ては田畑の區分は甚だ肝要なものである。田と畑との區別は何處に置くべきであるか。この點に關して昭和四年の耕地調査は次の如く述べてゐる。

「田とは灌漑に依り耕作を爲すを本旨とする耕地を指すのであつて、灌漑に依るとは畦畔に依つて水を湛へ其の水を利用することを謂ふのである。」

「畑とは灌漑に依らないで耕作を爲すを本旨とする耕地を謂ふ。」

由是觀之に、田と畑との區別は灌漑に依つて耕作を爲すを本旨とするものであるか否かに懸つて存するものである。この結果は田と畑との農業經營上からも、社會經濟上からも、大きな相違を生ぜしめてゐる。

田が灌漑に依るを本旨とするの結果は、田は地理上の位置に制限を受けると共に、又水利とも密接な關係を持つに至るし、尙又水田經營が従つて強制耕作ともなつて、茲に一種特別の農業事情を生むに至る。又田は水を湛へる

設備をする爲に、畑よりも其の造成に多くの費用を要する。然も田は其の耕作に當つては、作物が水稻其の他一二の特殊作物に限定されてゐるのであつて、此の點は耕地の利用、従つて農業經營に大きな影響を及ぼすものである。殊に水田は其の主たる目的が水稻の栽培にあるのであつて、我國の如く米を主食物とする國民にとつては、米の生産の基礎をなす水田の量が幾何存在し、又その變化の方向如何は國民經濟的見地に於て重要な問題と謂はざるを得ない。

即ち田と畑との區別は單に一時的のものにあらずして、其の耕作利用の本旨からして異なるものであるからして兩者を區別して調査するの必要が生まれるのである。勿論田と畑とは其の利用の本旨を異にすることからして、其の外観をも異にする。即ち水田には水を湛へるための特殊設備がある。従つて、この外観のみに着目して田畑の區別を附することも出来る譯である。即ち水を湛へることの出来る設備を持つて居るものを田とし、然らざるものを畑とするのである。

然しながら、外観上水を湛へる設備を有するからと謂ふて、必ずしも其の耕地が灌漑に依つて耕作をなすを本旨としない場合もあり得る。即ち畦畔等の設備は水稻を栽培する時の儘でありながら、實際上は水稻を栽培することなく、桑を植ゑ若くは梨を栽培するといふが如きものである。斯る場合、此の土地を田とすべきか、畑とすべきかは、田畑の區別の標準を何處に置くに依つて異なること勿論である。耕地調査の時の様に、利用の本旨に其の區別の標準を置くこととすれば、當然之は田として取扱はざるを得ないこととなるし、其の土地の外観のみに其の區別の標準を置くこととすれば、當然之は畑として取扱はざるを得ないこととなる。何れを採るべきかといふことは、統計の理論からは生まれ来て来ない。社會の必要が之を決定する。従つて社會が特に外観上の田畑を調査することを要求するとすれば、耕地統計は其の意味に於て田畑を調査すればよいのである。

然し、元來外観上の設備は、利用の本旨に伴つて發生したものに過ぎないのであつて、何處までも設備は従であり、利用の本旨が主であるのだからして、偶々利用の本旨が既に變更されたに拘はらず、設備のみが（別に差支もないからといふ理由で）従前の儘に残されて居る様な場合、之を其の外形のみに着目して田となし、其の利用の本旨に反した取扱をなすとすれば、聊か本末顛倒の嫌ひがないでもない。

（ロ）田の利用回数（毛作關係）

田に於ては一毛作田、二毛作田等の名稱が屢々使用される、米の栽培が毎年初夏に始まり晩秋に終るを利用し、晩秋より次の年の初夏に至る間に他の作物を栽培する場合に、此のことを通常二毛作と呼んでゐる。二毛作は元來總ての水田に於て可能とは謂はれない。第一には氣候條件に支配される。即ち夏季の農作物に最適の期間を大部分水稻に占領されるのであるから、緯度の高い地方に於ては裏作は殆んど不可能といふことになる。即ち冬期の氣候が溫暖であることが、先決條件である。併し氣象條件だけが如何に備はつてゐても、土地の排水設備が悪くては、裏作は行はれない。更に右の如き自然的條件が備はつてゐても、社會的條件が備はらなければ、二毛作は起り得ない。二毛作を行ふといふことになれば、裏作々物の種類にもよりけりであるが、麥、菜種等を作る場合には、農業勞力の分配も考へなくてはならぬ。排水の良否に依つて、水田を分かつては濕田と乾田となる。これは自然的屬性である。毛作關係は濕田、乾田の關係よりは、社會的色彩を多分に豊かに含んだ概念である。此の意味に於て毛作關係の調査が、統計となり得るのである。

日常使ひ慣れてゐる一毛作田、二毛作田といふ言葉も、之をつき詰めて考へると、あまり明瞭な概念ではない。先にも述べた様に、田の毛作關係は田の自然的屬性ではなく、農業經營に於ける田の利用上の概念に過ぎない結果田の各筆に就て之を見るときは、必ずしも其の區別の明瞭でないものもあり得る。年々歳々表作と裏作とを續けて居る様な田地に就ては、何の問題起り得ない譯であるが、裏作を始めて未だ一回にしかならぬとか、從來二毛作を行つて居たものを、茲二三年勞力の關係で裏作を休んで居るといふ様な場合、之を如何に取扱ふべきかは、迷はさ

る問題である。

一毛作田と云ひ、二毛作田と常識的に呼ぶ場合に於ては、之を其の田地の屬性として取扱ふに別段の不都合も起り得ないと思ふが、この區別が元來利用上の區別であつて、田の外形に表はれないものであるのだから、これを各筆毎の田地について漏れなく區別することは、困難なことゝ謂はねばならない。

一此の場合、假令二毛田を二毛作に適し且つ之を目的とする田地といふ様に定義を下して見ても、やはり實際の單位觀察に當つては、曖昧の節の表はれて來るのも止むを得ない。

従つて統計調査としては、斯る曖昧なものに基準を置く代りに、もつと事實に即して之を定め、普通常識的に考へてゐる田地の屬性としての一毛田、二毛田の概念とは多少の異なる所はあるにしても、

一毛田——過去一年間に一回作物の收穫ありたる田

二毛田——過去一年間に二回作物の收穫ありたる田

或は、一毛田——過去一年間に一回作物の栽培をなした田

二毛田——過去一年間に二回作物の栽培をなした田

と、此の様に區別の標準を置くのも一方法である。こゝにいふ意味に於ての一毛、二毛の區別は最早や田の屬性としての區別ではなく、現實の田の利用を表現した概念となるのである。

農會調査の農事統計に於ては、現に一毛作田地、二毛作田地の面積を毎年末現在に於て調査してゐるのであるがこゝに於ての區別は屬性としての區別ではなく、其の年限りの利用上の區別である。統計調査として毎年行ふ建前から見ても、右の如き定め方は妥當と謂はねばならぬ。即ち農事統計に於ては、調査の標準を次の如く定めて居る。

一毛作トハ一年中ニ一回植付ケタルモノトスルコト(故障ノ爲收穫出來ズトモ)

二毛以上作トハ一年中ニ二回以上別種ノ作物ヲ作付ケタルモノナルコト(但シ同種作物ト雖モ二回以上收穫スル場合ハ二毛以上作ト看做スコト)

右の分類に依るときは、田地であつて其の年或る特殊の事情から作物の栽培を行はなかつた田が残る譯であつて我々は之を普通「休閒田」と呼ぶ。

即ち田に就て之を毛作關係によつて分類するとすれば、休閒田、一毛作田、二毛作田又は多毛作田となる。

(ハ) 畑の利用上の種類

耕地の利用は總て作物と關聯して考へらるゝことであるが、畑作に用ひらるゝ作物の種類は、我國だけでも數百種に及んで居るのである。従つて栽培作物の種類に依つて畑地を分けるとすれば、畑の種類も數百に達することゝなるのである。斯る分類は勞多き割に利用價値少きものと謂はねばならぬ。

第一各作物は必ずしも栽培の時期及期間を同じくしない。従つて或る時點を押へて靜態調査を行つたにしても我國に栽培せらるゝ總ての作物がわかる譯ではない。又或る種の作物は年に數回栽培する場合もある。畑に於ては多くの場合、田に於けるよりも毛作關係が複雑である。

又同一作物が同一耕地に毎年栽培せらるゝものではないのであるからして、栽培作物の種類に依つて直に耕地の屬性を決定することは出来ない。従つて畑の屬性としての種類は、斯る基準によつて調査することは無意義と謂はねばならない。

併し作物の中でも多年生作物たる果樹、茶樹等の樹木灌木は、他の一年生若くは二年生作物とは大分趣を異にする。樹木灌木が栽培されてある畑は、最早や其の利用の方向が一定年限のあひだ固定せられたものと謂はねばならない。一年生作物を栽培した土地の如く、次の年には又別の作物を自由に選擇して栽培し得る狀況に在るものとは農業經營上非常な相違がある。樹木灌木作物を栽培することは、資本を固定することである。従つて斯る種類の畑

地は、之を然らざる畑地と區別して調査することが、必要とならざるを得ない。果樹畑、桑畑、茶畑、其の他の樹木灌木栽培を、樹木灌木栽培畑として調査し、其の他の畑を普通畑として調査した耕地調査は、茲に其の調査の意義を有する。

樹木灌木栽培畑が利用の固定化として意味を持つと等しく、普通畑は利用の流動性に意義を有する。然も場合に依つては其の利用は年一回に止まらず、數回に及ぶことがある。同一耕地より一年間に二回以上同一作物又は別種の作物を收穫することは、經營資本の回轉速度の速なることを語るものであつて、其の社會的意義は極めて深い。従つて普通畑に於ても、田の場合に於けると等しく、其の毛作關係を調査することは有意義なことではあるが、前にも述べた通り普通畑の利用は流動性のものであるから、屬性としての一毛作畑、多毛作畑を考へることは無意義に近い。これに於いて唯其の年限りの實際の利用回数を調査するより外に方法がない。

而して普通畑に於ける利用回数の多少は、農業の集約度と密接な關係を持つものであつて、氣候は勿論、自然的社會的各條件の支配によつて規定せらるゝものなることは田の場合に等しきも、寧ろ一層其の關係は複雑である。其の中でも特に氣候は大きな影響を持つ、高緯度の地點に於ては、如何にするも年内に二回以上作物を栽培することは、不可能な場合が多い。此の様な地方に於ては、畑の毛作關係を調査することは、田の場合と同様無意義なことである。然し我國に於ては少くも關東北陸以南の地方に於ては、氣候條件に關する限り二回以上作に適應しないことは有り得ない譯であるから、畑の利用回数を決定する大きな要因は、寧ろ社會、經濟的要因と見做すことが出来る。従つて畑の利用回数を統計的に調査することも決して無意義でない。

元來普通畑に於ける利用回数は、田に於ける一毛田、二毛田の如く其の土地の屬性として、之を區分することが出来難い場合が多い。即ち畑は利用者の考へ如何によつて、之を一回利用することも、二回若くは三回利用することも出来るのであつて全く個々の土地から見れば偶然の場合が多い。だから普通畑に就ては、其の年内に於ける

事實を押へて、其の土地が二回使用されたか、一回のみの使用に終つたかを調査するより外に途はない。

次に統計調査に於ては、畑地利用は何に基準を置いて其の回数を決定すべきかを定めて置かねば、調査は出来ない。其の方法には大體次の二つが存在する。

(A) 作付の回数に基づく方法

作付といふ行爲を押へて、作付が一年に何回行はれたかによるものである。

(B) 收穫の回数に基づく方法

收穫行爲に基準を置くものであるが、これと前の方法とでは必ずしも一致しない。例へば前年末に麥を作付けて初夏收穫した後、茄子を植付けて秋これを收穫すれば、其の土地は二回收穫地で、利用回数二回となるが、作付からは一回利用となる如きである。

耕地の利用回数の調査に於て當然問題となるのは、其の年、作物を栽培しなかつた耕地、即ち休閒地である。我國に於ては、休閒地は殆んど問題にならぬ程僅少なものであるが、經營の粗放なる諸外國の農業に於ては相當これが存在する。



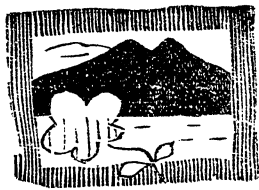
統計模範町村視察(十二)

詩か？菊か？團子か？

誰の頭にもぴんと来る

武の神は驛頭に地下には大忠臣

筑波麓の山麓の大寶村



蓮の浮葉かき分けて
棹さしめぐる湖や
落る日天の雲染めて
夕の浪は静かなり

筑波も暮れぬ野も暮れぬ
唄も暮れぬる藻刈船
撓へる棹を操りて
行くべき方も暮れにけり

筑波根詩人横瀬夜雨が幾度かロマンスを繰りかへした藻刈船など今は想像もつかぬ、美田と化して一望萬頃さへぎるも

ロマンスも埋もれて

しまつた。大寶、騰波ノ江兩村の兩益組合によつて二百町の美田、沃野が設けられたのである、そして大蛇が出るのぬしが出るのといはれたあたりには現に常總鐵道が煙りを上げて通つてゐるのである、如何に世の變遷のたゞならぬかを思はせられるのである。

さて此の異常なる變更によつて風致に影響したことは兎も角、明治四十一年から干拓に従事し、大正五年迄星霜實に九ヶ年にして干拓完了、大正六年公用廢止となつて永遠に大寶沼は消え去つたのである、これに敎學院臺から見おろした處に二百五十町歩の素晴らしい水田があり、沼跡の百十町其の他を加へ水田實に三百八十五町歩、沼跡はシボレ水にて多少水害の如きものもあるも其の他には別して水害等もなく、地味肥沃にしてよく實り、八幡宮を挟んで良田東西を蔽ひ收穫の秋にもなれば穰々萬頃眞に美事なる模範的の田所である、沼跡は關城の要害まで一眸のうちに收められ、東方横根方面は騰波ノ江、豊加美の方面まで、豊饒なる小貝川が、ふさ／＼と長く展びてゐる、俗に陰曆八月十五日を大寶まちと稱し、大寶八幡の例祭になつてゐるが、其の頃から稻は漸く實りに入らんとして見事な農壇は形作られるのである、お祭りではい

のなき沃野を整へ、關城、大寶城と共に高かつた大寶沼は今其の片鱗だも止めない。筆者等少年の頃など四時漫々と水を湛へ、八幡宮の山裾をヒタ／＼と洗つてゐたものである夏ともなれば名物の團子屋惠比壽屋の小船を借りて、蓮の浮葉をかき分けかけ分け、眞ツ白い菱の花を探し廻はつたものである、おつかなびつくり船から飛び込んで泳ぎ廻はつたりしたものである、藻の蔭には沼のぬしといはるゝ大蛇がゐるといはれてゐた、耳の生えた大きな鰻がゐるともいはれてゐた、八幡の森は此の沼のために何れ程か趣を添へてゐたのであらう、八幡様はどれ程か此の沼のために風致を増してゐたのであらう、夜雨君等が名勝保存の上から風致保全の上から極力反對してゐるうちに水は涸れてしまつた。

ろ／＼な農民の用具が商はれる、そして農家一年の用度は茲に整へられることになつてゐる、然らば大寶の米は幾ら取れるかといふと、水田が三百八十五町歩で、米八千三百石を算し、別に陸稻か五十一町歩ばかりある、畑は二百八十町歩ばかりあるが、其の内百町歩は桑で如何に養蠶が盛んであるかがわかる、即ち春蠶が二百四十二戸で一萬二千七百九十グラム、今年の收蠶高が七千八百四十二貫、三萬八千八百八十六圓、夏秋蠶が一萬六千七百三十二グラムの掃立で、收蠶八千八百八十貫、三萬六千五百一圓、合計七萬五千三百八十七圓に達し、

現在總戸數に割當て

ると一戸當百三十餘圓、飼育戸數にすれば三百餘圓に當つてゐる。しかも地の利を得て水害などは殆んど被つたことなく水田の七八割は二毛作にも小麥を作つけ、その小麥が先頃などは一俵十圓からもしてゐるのだから實に農家らしい農家は營まれてゐるのである、ことしなどは水田に仕付けた小麥だけが九十二町五反に上り、他は多くは大麥である、従つて納税の成績等も慥かに縣下に誇りうるの好績をあげ、現に滞りをるものも種々なる事情の引かゝりから勢ひ滞納の止むなきにいたつたもので、事情の解決と共に完納さるゝもので現に其の曙光が見えてゐるさうである、遠からず解決されるので

あらう、之を統計方面から見れば是亦優れたる成績をあげ、
縣西の模範を以て稱せられてゐる、現在調査員は何れも村の
中樞人物で

- 森 角三郎氏 五十五年
- 大塚與四郎氏 三十七年
- 市村彦太郎氏 五十六年
- 横瀬 福松氏 四十六年
- 中山貞次郎氏 四十六年
- 杉山 一郎氏 四十三年
- 栗原 政作氏 四十三年
- 横瀬 定平氏 五十四年
- 關 甚四郎氏 二十四年
- 渡邊喜代松氏 五十年

の十氏を數へてゐる、其の内横瀬定平氏は統計主任でい
ろく研究した結果、主任だ
からとてお高く止まつてゐ
たとて統計のことは逆も駄目

だ、自分で先に立つて斯ういふ風に出來た、こゝは斯うした
方がよい、といつて自分から模範を示して調査員を導かなけ
れば圓滿に行かないと考へて大正十二年から身自ら調査員と
なり、實際に研究して範を垂れるやうした、さうすると第一



は大寶村役場の職員中員央は

統計主任横瀬定平氏

良好な成績を擧げ
てゐるのだから誰
も文句はない、そ
れに年十回位調査
員會議を開いてお
互ひに研究しあふ
ことにしてゐる、
しかも其の研究會
には調査員年手當
十二圓、米生産五
圓計十七圓の外に
晝食代を役場から
支給する、調査員
は辨當代が出るか
らといふやうな、

そんなさもしい氣持ではないが、會毎に心持ちよく出席して
熱心に研究するといふことになつて僅かのことはあるが、
頗る良意議に會は運ばれるのである、其の外旅費も計上して
あつて講習に代表を出すとか、視察員を派遣するとか、慰安

の道も講ぜられてゐる、斯くして調査員が多く集るの機會を
作るのか、刺戟を與へるとかいふことは、事業其のものに非
常に結構なことで、一人よりも二人といつた工合で調査その
ものについても一人よりもお互ひ研究も出來るし、確實性が
多分にある、いゝ加減なことはしないといふところから本年
から十人の調査員を五組に分ち

二人つゝて共同調査

を行ふことにしたが、思つたよりも成績がよく、村でも喜ん
でゐるし、調査員の方でも大變仕事がいゝといつて喜ん
でゐる、つまり其の喜びの結果は成績の向上である、さうし
て大寶村の統計は益々發達し、益々輝いて來たのである、主
任横瀬氏は昭和九年縣統計協會總裁より功績を表彰され、調
査員横瀬福松氏は拔群の成績を以て昨年初めて大臣の選奨規
定が制定さるゝや農林大臣島田俊雄氏の表彰にあつた、
只に横瀬氏御本人の譽ればかりでなく、大寶村統計界の榮譽
であり、引いては本縣統計界の誇りである。

舊記によれば、大寶はもと下妻の郷の一部で、島の城と稱
せられ、四方は滾々たる大江で所謂騰波の淡海の只中に尤然
として浮んでゐて、自然の城郭をなしてゐたともいひ、先き
に述べた大寶沼は即ち此の騰波の淡海の名残をとゝめたもの
ともいはれてゐる、下妻の郷は多氣弘幹が源賴朝に殺されて

どうかうのといふ異論が出ない、

主任が實地に行つて

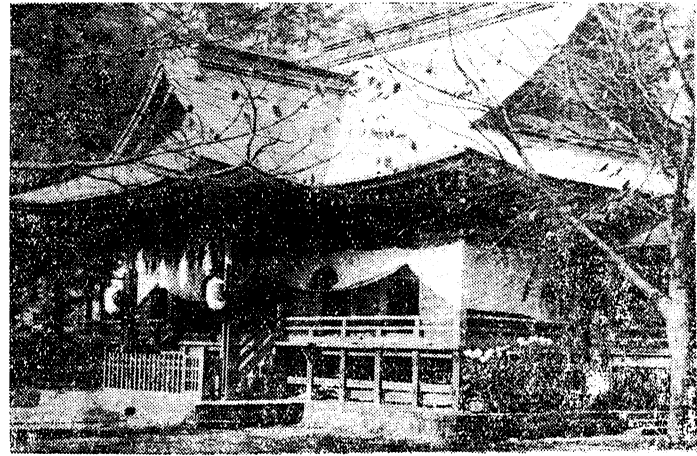
後小山四郎朝長(下妻氏の先)の所領となつたが、朝長の後三
代を隔て、修理の亮下妻政泰の代に至り、南北朝の争ひに際
會した、時に政泰尙ほ壯年に満たざるも大義名分を誤ること
なく、指呼の間にある關城の關宗祐父子と力を協せ、北畠親
房を小田城より迎へて關城に立籠り、春日中將顯時は大寶城
に興良親王を奉じて關の親房と相呼應し、足利の大軍を引受
け孤軍よく奮闘して有名なところである、けれども衆寡敵せ
ず如何んとも策の施しようがなかつた、親王を奉じて最後迄
勤王の旗を守つたが興國四年十一月十一日遂ひに大寶城頭の
露と消えてしまつた。明治四十一年四月明治天皇聖駕を結城
に進め給うた御砌り、特に誠忠を追賞せられ、正四位を贈ら
れ政泰忠死の碑が今も八幡宮の裏手に建てられてゐる。

此の大寶城と共に名高いのは縣社大寶八幡神社である。今
をさる千二百餘年前、人皇四十二代文武天皇の大寶元年、藤
原時忠卿が常陸國河内郡へ下向の時、宇佐八幡宮を勸請し奉
つたもので、足仲彦命、譽田別命、氣長足姬命の三神を祭神
とせるが、源賴家の崇敬厚く、後冷泉天皇の永承六年、源賴
義陸奥の叛賊阿部頼時を討伐すべき勅命を蒙つて出征の途す
がら八幡宮の大廣前に額づいて

朝敵退散の祈願を

範め、遂によく頼時を誅し、貞任の首を獲たので再び此の地

を巡り、祭祀の田地を寄進した、尙ほ源頼朝も信仰殊に厚く、戦勝を祈願せられたとも傳へられ、古來戰さの神として



大寶は功顯あらたかなる八幡神社に加ふるに菊を以て名物と

知られ、又願ひごとよく叶ふとあつて参詣者頗る多く陰曆八月十五日の大祭ばかりでも無慮十數萬の出入を算し、一ヶ年を通じて参拜者の延人員實に六十二三萬人といはれてゐる、失禮なことを申すやうだがお賽錢ばかりでも大したあがりである。近時

社殿
社實に六十二三萬人といはれてゐる、失禮なことを申すやうだがお賽錢ばかりでも大したあがりである。近時

し菊のために一ヶ月の長きに亘つて常總鐵道は臨時の割引列車を運轉し、近郷近在の小學校ではわざ／＼修學旅行がたらに菊人形を見物に行くのだ、そして名物のお團子は味はなればならないやうに出来てゐるのである、斯くて大寶は赫々たる神域を誇ると共に、大衆的な遊園地として展びて行くのである、見よ老杉蟲として天を摩するところ赤銅色の社殿として聳へ、壯嚴極まりなき間に菊花の技巧あり、或ひは京人形を眼のあたりに見るが如く、或ひは歌舞伎の絢爛に接するが如く、祈りの後ののびやかな氣分を滿喫するに充分である。

村は大寶、比毛、横根、坂井、平川戸、堀籠、大串、平根新田、北大寶、下木戸、福田新田の十一大字に別れ、坂井には猿田彦命を祀つた千勝神社がある、是亦戦勝の神として遠近に知られ、参詣者つねに絶ゆることがない。たゞに戦勝ばかりではなく、相場師だの、興行師だの、時には綺麗な御方迄お参りをする、此所は所謂千勝であるから何ものにも負けない、相場にも勝てば又興行も大入、商人は損をしないし、鬼に角

誰にも好運がめぐり

来ると云ふのであるから参詣するのがあたりまへだ、それで大寶の八幡神社に参拜する人は必ず千勝神社に参拜し、千勝

神社に参拜した人は八幡神社に参拜すると云ふ位である。今の様に鐵道が出来、自動車を通ふ様になつてからは八幡神社があまりに便利になつたので、菊や櫻にさそはれて参詣する者には千勝神社は知られてゐないが一部の人からは四國の金比羅様のように信仰されてゐるのである、此の御宮も八幡神社と同じく其の建立は非常に古く、もと常總の境に在りしものを今より千數百年前、兩國の郡界を改修された時現在の處より北方の位置に遷され、後現在の處に奉還されたものと稱

せられる。以上に述べた如く大寶と云へば八幡様か、千勝神社か、菊か、櫻か團子と云ふのは即ち世間に現はれた特産物のない純農村であることを意味するもので、米、麥、養蠶に收入の殆どを求めねばならぬ地であることが判らう、併し耕地は殖えるし地味はいし、園藝や蔬菜方面にでも仕事を試みるならば更に收入の増加を得られることであらう。此の村の益々發展せられんことを八幡神社、千勝神社の神靈に祈つてやまぬ次第である。



ルピアとリトハニ 位地の縣本

本縣のニハトリの飼養戸數は十二萬五千二百九十戸で、百六十萬三千二百七十七羽を飼育し、これから實に一億二千百三十八萬四千五百三十四箇と云ふ、かぞへても／＼かぞへきれない様な數の卵が生産された。我が縣の養鶏業は所謂有畜農業とか、多角的農業經營とか云ふ言葉よりも先に相當普及せられ、現在飼養羽數では愛知、静岡、千葉に次ぐ第四位となつてゐる。愛知、静岡、千葉に次ぐ第四位となつてゐる。本縣の養鶏は、勿論愛知縣には及ぶべくもないが、併し氣候が温暖で且大東京と云ふ大きな消化地を控へて居るのであるから、優秀なる卵鶏の普及と、飼料の購買に付改善を加へるならば更に優位と上ることを得るであらう。しかしアヒルはずつと少く、飼養戸數は七百二十一戸で、其の飼養羽數六千七百八、これが産卵は二十七萬七千五百二十五箇となつてゐる。全國に於ける地位は羽數では十八位、産卵では二十一位に下り、全く劣位にあるが、此れは収益上から見て鶏の方がはるかに優位にあるからで、本縣としては當然のことであらう。



理想の園藝・更生の模範

夢でない工都の卵

狭い耕地で發展する國分村

常磐線下孫驛といへば游子は直ちに海水浴場河原子を聯想したがるものである、左程に下孫と河原子とは秘接不可分の關係におかれてある、されど思へ！此の下孫こそは決して河原子のもではなくて我等が今紹介せんとするところの常磐沿線の模範郷國分村の一大字であり、しかも字こそ違うが此の國分村を管轄する村役場は、停車場から小学校前を過ぎて二三町にして通ずるのだ。

更に詳しく地理的に述べてみれば本村は多賀郡の南部に位置し、東西一里二十八町、南北二里二十三町、東には河原子を中央にはさみ其の兩端は太平洋に突出してゐる、西方は久慈郡世失、機初、佐都に境し、南は坂上村、北は鮎川、助川に接し、地形は西の方が稍々高く、山岳連亘して恰も屏風を立てた如くで、平坦な耕地は東方に延びてゐる、各部落には小

柱が立ち砂煙をたて、自動車が進んで來るので、あまりの現代化にその考へも吹つ飛んでしまう。

斯ふした並木のきれた處に家が續き、家がきれたところに並木がつくと云ふのが此の村でしかも耕耘によく、灌溉によく、又交通によいのであるから、これだけでも『いゝ村だな』と思はせる程實際に『いゝ村』なのである。

戸數は現在七百九十七戸、人口は四千六百八十一人を數へ多くは農家に従事して居るが水田が三十三町七反、畑が三百五十八町でこの耕地を約五百八十戸の農家が耕作するのであるから一戸當りにすると田が五段八畝、畑が六段二畝となるのである、此の内田は耕作せざる戸數は除いて計算したから一戸當五段八畝になるのだが農家總數で除したならば六畝にも充たない、それであるから比較的餘剩勞力も生じ、蔬菜園藝にも進んだもので、早くより大根、南瓜、白菜、里芋、促成栽培の胡瓜等の栽培熾となり遂に名産地となつたものであらう。こんな状態であるから本村の米作は陸稻を合するも到底消費に足らず飯米不足を來するのである、然し幸なるかな本村は工都日立と相距る僅かに一里、しかも鐵道あり、國道あり、日立助川の發展擴張につれて工業労働者たるもの漸く多く昭和七、八年頃から若い血氣な人は皆此處に働き現在、二百七八十名で三百人となるのも遠いことではない、かくして日立製作所より所得する本村の収入は凡そ七八萬圓に達すべく又

さな綺麗な川が流れをなして灌溉に便してゐる、陸前濱街道は村の東方を南北に貫通し廣車の晝に見る様な立派な松並木が兩側に連なつてゐる、記者は少年時代、未だバスもトラックも此の道を通はぬ頃、健脚を期するのと試膽を兼ねて幾人かして夜道を水戸から助川迄てくつたことがあるが、此處を通るときは非常な淋しさを感じたものだ松の精の爲か、大木の影から何かと襲ひかゝる様な氣がして我もく〜と先へいそいで、頂度空飛ぶ鳥の的人群が一行となつて横にぐんぐん〜擴がる様に一列に歩いたものだ、然し晝間此處を通ると

▽：昔の奥州路その儘の

なつかしさ、參勤交代の大名行列が思ひしのばれ今にも『エイホウ』『エイホウ』とやつて來る様に考へられるが今では電本村より生産さるゝ蔬菜も大東京に出荷する促成胡瓜、一寸蠶豆を除いては大部分此の工都に搬出され、金に換えらるゝのである。斯様に勞働賃銀を得たり蔬菜を賣つたり、従業員は供給所より安價な生活必需品及飯米の供給まで受くるの外農家は人糞尿を貰ひ受けて肥料とし、三重にも四重にも鑛山製作所の恩恵を蒙つて居るのであるが、更に今度は此の工場迄本村へ迎へ入れようとしてゐる、即ち線路以東の地河原子町に跨つて約百十五町歩の敷地が買入れられ、本村よりも畑三十五町、田四町、山林十五町凡て、約五十五町に達する廣大な地が買収される、これが完成の曉には一層『いゝ村』が出来上るであらう。

又本村民の勤勉なことは此の地方でも有名で、

▽：嫁を貰ふなら國分村から

と云はるゝ程だ、都人士の足繁く來る地方は、そのけばくしい様子にさそはれて田舎の土が嫌になるものだが、前にも記した様に海水浴場河原子の玄關に當心にも拘らず斯ふしてひたむきに働く乙女の勤美の勞風が買はれるものでまことにゆかしく心強い感がある。

日立助川から運ぶ下肥も朝三時か四時に起き出で普通の農家で仕事を初める頃迄には往復二里の道を運んで歸つて來るのである、そうして働きに働くのであるからどうして富ます

には居られよう、珍らしい程ゆたかな村で、村全体の貸借関係でも負債が三十八萬千七百圓なのに比し、貸金預金額は四十六萬五千九百餘圓に達し、結局八萬四千二百餘圓の貸金超過となつてゐる、こんな状態であるから少しばかりの災難があつたとて決してへこたれない、いや働く者は天が助けて却つて禍を福として呉れるのであらう、昭和七年であつたか？小學校が火災で二棟も焼けた、二棟と云へば田舎の學校であるから殆んど大部分なので村民は再建に非常な心痛したのも無理はない。處へ夢かとはかりの火災保険三萬七千五百圓が此の村に渡された、此の頃は不



前右列か山統計主任・田忠記
後右列か海野収役・岡部書記

景氣のどん底で物價は安いし労働賃金も安いので約二萬七千圓ばかりで再建され諸雑費を費つても四千圓なにかしの残金を生じ、今では此れを保険料の基金として蓄積し其の

長たること三期、役場の事務は三十年の間見て居られ現に村農會長、産業組合長等を兼ね郡町村農會長にも選ばれてゐる助役長山長太郎氏も既に三期を勤め書記を合すると村長と

同じく約三十年に達し此の女房役と村長との『名コンビ』に依つて斯くも『いゝ村』が營まれ、更に『よりいゝ村』に進みつゝあるのである。

本村の生産物を産額にして列記すると昭和十年に於ては穀類の

水稲	二八一石	八、一四九圓
陸稻	九〇四	二四、四〇八
大麥	三、〇六二	二四、四九六
小麥	一、六一八	二一、〇三四
裸麥	八〇〇	八、〇〇〇
大豆	五九	八二六
小豆	二五	四七五
粟	一九〇	一、三三〇
蕎麥	二三六	一、四一六
甘藷	一五三、七七二貫	二、三〇二圓
馬鈴薯	二三、八〇〇	二、三八〇
大根	二八二、一〇〇	七、〇五三
胡瓜	七六、一六〇	四、五七〇
南瓜	八六、六〇七	六、九二九
里芋	三七、五〇〇	四、五〇〇
白菜	二六九、七八〇	一〇、七九一
煙草	四〇、一〇七庇	二九、六六八

で合計九萬百三十四圓になるに比し蔬菜園藝類では

エンドー	(莢の盛生産に付本欄に掲ぐ)	三、六六四
ソラマメ		二、八三二
玉葱		二、六〇〇貫
葱		一〇、八一〇
蒟蒻芋		六、三二一
西瓜		二五、二八〇
茄子		四四、五六五
トマト		一四、九四五
牛蒡		一八、〇〇〇
促成栽培		一、五二〇框

等其の主なるもので實に十一萬餘圓に達するのである、其の内促成栽培などは昭和七、八年頃は三千框もあつたが若い労働を前記の通り日立製作所にとられたので努力不足となり約半數に減し従つて此れだけは収入も半減せられたのである、さうしてかくも狭き耕地に比較し、かくも生産がゆたかになつたのは、何としても

▽：經濟更生計畫のおかげ

である、本村は昭和七年の第一回到既に指定村となり昭和十一年には更に他の四十一ヶ町村と共にまた／＼縣より指定され、實行に對する督勵に就ては村及農會産業組合、小學校青年學校、消防組軍人分會男女青年團、農家組合、家庭個人に別ち其の實行方法を定めて邁進することゝなつた、其の實施

要項は左の通りであるが、前回の實踐に鑑み今回の計畫も相當の成績を収めらるべきを確信する。

經濟更生計畫實施要綱

- 第一 總務部
 - 1 各種機關ノ聯絡
 - 2 役場事務ノ刷新
 - 3 時間ノ確守
 - 4 滯納者ノ絶無
 - 5 犯罪者ノ絶無
 - 6 衛生ノ普及
- 第二 經營部
 - 1 生産ノ増殖
 - イ 栽培技術ノ改良
 - ロ 優良品種ノ普及
 - 2 自給物資ノ増殖
 - イ 自給肥料ノ増産
 - ロ 食料及飼料ノ自給
 - 3 農産物ノ加工
 - イ 農業經營ノ改善
 - ロ 農業經營簿ノ記帳
- 第三 經濟部
 - 1 販賣購買ノ強化擴充
 - イ 農産物ノ共同販賣統制
 - ロ 經濟更生ノ共同購入
 - ハ 産業組合利用部ノ擴充



所販出川助合組業産分國の設開てしと場市物青へ町川助

- 2 金融ノ改善
 - イ 貯金ノ奨励
 - ロ 負債ノ整理
- 3 産業組合ノ強化擴充
 - イ 産業組合加入ノ奨励
 - ロ 組合信用程度ノ擴充
 - ハ 産業組合精算ノ普及徹底
- 第四 教化部
 - 1 教育方面
 - イ 農民精神ノ作興
 - ロ 農村教育ノ實際化
 - 2 生活改善
 - イ 生活ノ合理化
 - ロ 儀禮ノ改善
 - ハ 保健衛生ノ向上

然して農家組合も村内地形部落の狀況に依り大字大久保十二組、大字金澤十組、大字下孫四組、合計二十六組に達し之が組合の名稱も地名の他更生、報徳、親和、協和、明徳等其の精神と力強さを物語つて居るのもある、此れ等が一團となつて村計畫を基礎に更に研究の上、其の組合の實行計畫を樹立して益々更生の實を擧げんとするものである。

昔より『恒産ある者は恒心あり』とか斯くして現在の様に村

が富み家が富みますく／＼伸びて行くので村も圓滿、家も圓滿何一つの問題なく、村長、助役、収入役の三役が三期も無事に勤めてゐるのである。

又本村の誇り得るものに縣下に於ける模範たる保證責任團分信用販賣購買利用組合がある、現村長が組合長であるが其の創立は明治四十二年十月で本村は當時五百五十二戸で、時の組合長大窪義一氏は其の各戸に就き、雨の日も、風の日も足を運んで、村民の一人一人に組合創立の趣旨と各人の利益を説明し其の自覺を求めたので、翌四十二年二月末には其の心意氣に感じてか加入する者二百六十五名に達した、そして其の後の事業經營宜しきを得、愈々其の堅實味を増したので大正三年末には組合員四百五十名、出資口數千二百五十三口を算し組合の基礎全く成り活動も活潑となり

▽：勤勉の美風を馴致し

農事の改善と共に經濟上にも好影響を來すに至つたのである。然して明治四十五年には販賣事業を、大正七年には利用事業を兼營することとなり、更に共同販賣を有効適切ならしむる爲倉庫の必要を感じ倉庫業兼營を可決、一萬餘圓を以て五十五坪の石造倉庫を建設した、此の隆々たる發展の生みの親たる組合長大窪義一氏も昭和五年一月赫々たる功績を遺し遂に故人となられたので、翌二月現組合長大窪定吉氏が就任し

たのである、今では更に／＼躍進し確乎不拔の基礎を固め、本村の外鮎川村、河原子町も組合の區域に編入し他町村民の福祉にまで貢獻し、組合員約七百、出資口數二千三百三十二口の多きに至つたのである。

同組合の拂込出資金は三萬七千九百六十二圓で各種積立金は二萬一千四百三十四圓もあり、組合員貯金は二十二萬七千四百五圓で貸付金は十三萬六千三百二十圓であるから金が全くだぶついて困る程だ。

利用事業では精米機三臺、精麥二臺、精麥壓搾機、製粉機大豆粕粉碎機、肥料粉末機各一臺を備へ四千五百五十九圓の利用料を収めてゐる、面白いことには此の内に組合産婆一人を有し、去年は男子四十五人、女子五十二人を組合の手で生ませたことで本年度に於ては

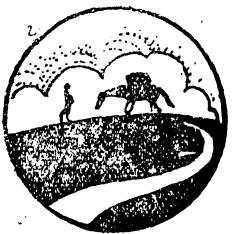
▽：理髮事業迄組合で

なさうとしてゐるが其の他自家醬油釀造並蔬菜加工等も本年度の事業に擧げられてゐる。

購買や販賣にありても何れも相當の成績を擧げ、殊に販賣に就ては助川町に蔬菜の市場を設け、何でも生産物を此處へ持込みさへすれば其の品を組合で預り、傳票を渡して夫々處分し貰つた傳票を事務所へ持参すれば代金が受け取れると云ふ仕組になつてゐる。

斯ふした環境にある村であるから統計事務もどうして進まずには居られよう、元來多賀郡は町村事務では全般的に良好で南北十ヶ町村宛に別れて何事でも連絡統制をとつて發展して行くので、統計に於ても年數回研究會を輪番に開き其の他調査員表彰とか調査員講習會等の事業を研究會の名に於て行ひ益々進歩助長を圖つてゐるのである、本村は其の内でも經濟更生事業や、産業組合の事業もあり村そのものとしても統計は殊の外必要にある關係上、特に長山主任の指導の下に左の七名の調査員が協力一致して正確なる統計の蒐集にいそしんでゐる、そして其の努力のかいあつて模範的なる更生村、組合を生じ其の他あらゆる方面に於て手本を示してゐるのである。

第一區	大窪	四郎	勤続八年
第二區	岡部	義治	全十一年
第三區	富岡	甲一郎	全六年
第四區	照山	幹一	全六年
第五區	林義	一全	一年
第六區	小森	種一	全八年
第七區	長山	喜興藏	全三年



豊年か不作か 米の調査を顧みて

出た〜巷説

赤くなつた調査員

旱害、冷害、水害と三年に亘りての災害に農家にとりて喜ばるべきみのりの秋が悲しむべき凶作の秋となりて如何に農家を苦しめたことか。

此の苦しみより脱脚して更生の第一歩に踏み込むには農家の収入の第一である米の増收、繭の増收及此の相場の如何に係り其の他の生産物に於ては如何なる方法を講じようとも之に及ぶべくもない事は誰しも知る所であらう然るに此の繭は何うかと謂ふに收繭も上々、値も上々、先つ申し分無しと謂ふことを得るであらうが米は巷説紛々で縣の第一回豫想收穫高、第二回豫想收

丈餘の山腹にある大きな風穴、洞口四尺餘、四方絶壁の石室で更に南方一丈二尺餘の穴を梯子で登れば又中四尺程の大洞、下には水が流れる様な音が絶えずしてゐるさうである。これは大古、武甕槌神が賊を平定して部下の神々と共に此の穴の中で祝勝の宴を催ふしに依り賀座の穴と云ひしものが、後風穴に轉し遂には、人洞口から入れば大風が生ずると謂ふに至つたものと傳へらる、何にしても穴とかウツロとか云ふものは村人の氣持から全部とり去つて背負つたかのように袈張した國分村を逃つたのは此のウツロだと云へば云へるのであるから大切に保存して貰ひたいとして益々本村の躍進を祈つてやまぬ。

◇寄贈圖書

- 列國政策彙報第十二號 内閣調査局
- 資源 第十一號 資源局
- 昭和十一年群馬縣麥統計 群馬縣總務部統計課
- 全群馬縣麥統計 全
- 昭和十一年九月東京株式取引所統計月報 東京株式取引所調査課
- 長野縣統計時報 長野縣統計協會
- 重要生産月報 商工大臣官房統計課
- 全國工場通覽(昭和十年度) 日刊工業新聞社
- 三重之統計 三重縣統計協會

穫高の發表毎にやれ見積過大だとか蟲害が何うだとか、偏見と云はうか狹見と云はうか、只自分の周圍の状況により縣内全部を想定する様な者及び此れ等の意見を盲信してとかくの盲論邪説をまことしやかに報ずる者があつたがそんな者はおそらく炎天の日に額に汗して水稻作況を調査し、之に引續き細密な耕地圖と耕地一筆毎の面積及耕作者を記入した作付反別調査原簿を基礎に耕地を巡回して米第一回の豫想收穫高も調査し、更に十月末日現在に依る米第二回豫想收穫高と三度も耕地を巡回して調査するのは知らぬことであら

う。此の調査に従事する統計調査員は縣内で約三千九百名に達するが、此の調査員は何れも相當の耕地を有して農業を經營する篤農家で、多忙な業務の傍ら調査に従ふか、或は又其の業務をも割きて献身的に綿密な調査に従事してゐるもので、なかには『此んなに忙しいのに調査にばかり張り込んで家の仕事もしないで仕様がなない調査員なんかやめて少し手傳つて貰ひたい』と謂ふ様な非難の聲まで聞く程なのである斯ふして調査した米の調査に、其の勞苦に對しては想像するものだけに毎々米の發表たびに論議の的として根據なき言葉を聞くことは甚だ遺憾の次第であるが、此の調査を知るものはそんな論議は之を一笑に附し殆んど問題にしてはゐないのであるから、斯ふしたことが傳へられたとてあなから興奮するには及ばない。

本年の實收も本誌の發刊頃迄には大

體調査を完了し發表の運びに至るであらうが其の實收がよつて此處に至れる原因を観察するとき前二回に發表せられた豫想收穫高に統計調査員が如何に努力されたか、どれだけ調査が正しいかが判明することであらうが今後とも調査に従事する者としては一般社會がどれだけ此の米の調査に對し關心を持つてゐるか、又其の反響が如何に大であるかを充分認識して一層正確なる調査を遂げ社會の期待に背かざる心懸が必要である。

然らば本年の米生産統計調査に際しては凡てに遺憾が無かつたかと云ふと勿論本縣の調査の基礎は他府縣に比し完備し全く遜色なきものであり、其の調査の結果に於ても亦自信を有するものであるが其の調査の経過、内容等に付検討するときは尙指導注意を要すること多々あるを感ずるものである。

左に其の諸点を記載するを以て今後の調査に資し遺憾無きを期せられた

であるが此れは全國的に使用するものではなく、仕事の便宜上且確實なる調査を行ふ必要上基準票を作る以前の手段として本縣のみ作成するものである。

本表は既に御承知の通り基準票に記載せらるべき自調査区内の米作反別を各作人別に一筆毎に登載して之を集計して基準票の段別を纏むるのであるが此の補助表に基準票に記載せらるべき算出收穫高の一欄を設くれば基準票に記載する全部の事項が補助表に記載せらるゝこととなり、基準票作成が全く二重の手数であり不要の仕事なるを感ずるものなるを以て此の点の改善を爲すべく縣より農林省に意見を提出されたのである、此の方法は去る十二月の米生産統計調査査閲蒐集の際、新治郡藤澤村で既に三年間も實施して居るのを發見したが、同村では此の關係上基準票の作成には全く馬鹿々々しさを感じて居たとの事である、此れは縣市町

い、先づ第一に注意すべきは

作付段別の調査

である、作付反別は九月二十日現在に調査する米第一回豫想收穫高表の報告迄に調査するもので、其の後其の耕地に潰廢なき限り實收の調査に於ける作付反別と一致すべきであるが之が一致せざる町村のあることである、此れは九月二十日迄に全作付反別を調査し得ざる調査員があつて、已むを得ず作付反別調査原簿又は土地臺帳等に依り推計して計算を爲したる者あるか、又は調査を完了するも其の計算に誤算ありしか、又は作付反別調査原簿の加除未済に依り其の調査に誤謬ありたるもの等に基くもので決して調査を閑却したもとの思はれざるも斯る相違を來すことは著しく統計の信用を傷くるものなれば今後充分注意することが肝要である。次は

村とも十九となつて是非とも實現させねばならぬ問題である、尙本表の作成に關し其の取扱上一二町村に誤解のあつたものがあるので此の機會に注意して置きたい、それは收穫皆無の場合で、其の皆無の面積は補助表並基準票調査票に登載せず、調査區結査表の備考に收穫皆無何町何段と記載して結果表の段別に合算するものあることである。

現米生産統計調査取扱方では、其の作付反別を農家本位に取纏むることがたてまへとなつて居るのであるから、たとへ收穫皆無でも其の農家の作付段別であるから植付不能で無い限り凡てを調査すべきである。

尙此の様式の配列につき基準票が水稻の粳米、糯米、陸稻の粳米、糯米が凡て右より左となつて居るのに補助票は左より右にて記入上不便を伴ふとの意見は至極尤と認むるに付考慮する必要あるを感ずるものである。

一段歩收穫高の決定

である、此れは各調査區毎に其の區内の作柄を上中下に別ち坪刈を行ひ、之を參考として其の作柄毎に一反歩收穫高を決定するのであるが、村全體の中庸を選び上中下の作柄の區別なしに平均の一段歩收穫高を決定するものがあるが果して村全體の中庸の作柄を選び得るかどうか疑問である、勿論上中下の三段階級でも確實なる基礎を得ることは困難であらうが、段階を多くすればする程誤差の中を少くすることが出来るのである、又一部ごく少數の町村であるが坪刈の結果を三百倍して一段歩收穫高と爲すものがあるが、坪刈とは斯く決定的なものではなく即ち一反歩收穫高の參考として之を實施するものであるから如斯ことなき様注意することが肝要である。次は

米生産統計調査補助表

米生産統計調査基準票

本票は既に補助表に於て述べた如く本縣の如き順序にて調査する場合は全く必要な事項なるも、本縣の意見の如く改正せられず又本縣のみは右補助表を以て基準票と認むとの特例を認むるに到らざる現在に於ては他府縣同様取扱方の順序に従ひ之が作成を要することは勿論である。

然して之が段別の記載に當り補助表より誤載する様なものも多少見受けられが切角綿密に調査した補助表の反別と基準票の反別が一致せざる様な場合のあるのは所謂九俣の功を一闕に缺くもので甚だ遺憾のことであるから注意を要するは勿論である。

米生産統計調査票

は基準票を各調査員が自調査区内を作人毎に作製して之を作人の住居地の調査員に送付し、之に依り各調査區に跨

調査區結果表

り米作したる農家に就ては各區の基準票を合計して其の農家の作付反別を纏め其の反別に對する收穫高を聴取し之と各基準票の算出收穫高を合計したるものとを對照し、双方審査の上凡ての状況を參酌して審査收穫高を決定するのである、然し此の方法は全くの理想にて果し 何の程度迄實施されて居るか疑問を感じるものである。

即ち農家に於ても晩稻を多く作付する場合あるべく、又たとへ晩稻の作付増加せざる場合と雖天候の關係に依り著しく收穫を遅延することあり、此の場合收穫の半に之が調査を爲すに非ざれば縣の報告期迄に調査を完了するを得ざるに到り確信無き調査を爲すか報告期を延期せしむるかの岐路に立たしめらるゝ場合あり此の点は主務省にても相當考慮あらむことを切望するものである、

本表は調査票の作付反別及審査收穫高を集計して作成するもので誤算無きを期するのが第一である、町村に依りては此の誤算なかしむる爲調査票十枚毎とか、二十枚毎とかに一つの小計表を作製して集計及換算の便に供して居るが米作農家の多き調査區等にては此の方法を採用するは至極適當と存せらるゝ次第である。

以上で概略を述べたつもりであるが要するに各町村主任及調査員各位は各自の調査の成績を顧み果して遺憾が無かつたかどうか、どんな点に努力せねばならぬか、次年は斯ふして調査しようとか充分御研究の上より正確な調査を纏むることに御盡力を御願ひすると共に一般社會に於ては米の調査はどうして出来るか其の順序方法を理解され調査員の勞苦に對し同情と敬意を表する様にしたいものである。

寄贈圖書

- 茨城縣多賀郡豊浦町々勢要覽 豊浦町役場
- 統計に現れたる福岡縣の地位 福岡縣總務部統計課
- 昭和十一年市町村豫算概算 全
- 調査月報 第十號 朝鮮總督府
- 統計時報 十一月號 奈良縣統計協會
- 臺灣住民ノ生活表第一回 臺灣總督府官房調査課
- 昭和十年農事統計表 農林大臣官房統計課
- 二豊の統計 第三號 大分縣統計協會
- 統計時報 第六十一號 内閣統計局
- 浪華の鏡 十一月號 大阪府統計協會
- いしずる 十一月號 福岡縣統計協會
- 昭和十一年徳島縣產業要覽 徳島縣
- 阿波湊噺誌略全 全
- 昭和九年福岡縣統計書一、二、三編 福岡縣
- 統計時報 第四號 秋田縣統計協會
- 統計上から見た大分縣の地位 大分縣統計課



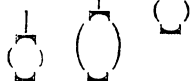
實務 道場 統計調査の景 (13)

一年は早いもの

またく春季調査



誰もが祈る今年の豊年



我が實務道場子は昭和十年本誌と共に生れて其の後止月を迎ふること茲に二回漸く三歳となり人間なれば今年十一月には三つの祝を行はねばならぬこととなる幸なるかな昭和十一年も豊年、先頃續きし凶作に比すれば今年も來年も豊年でなければならぬ筈だ、そして彼の夏の夜高い檜の下に集つて農村の若人たちが

今年しや豊年穂に穂が咲いて
道の小草にも米がなる

と踊る豊年踊こそ望ましいものだそしてその豊年の正しい統計を得て之に對する適切な施設の基礎をつくり平和な國家、縣、村、家をなさしむることこそ望ましいものだ、それには調査の根本を爲す耕地圖とか作付反別調査原簿と云ふ様なものを第一に加除整理して

おくことが大切で春季調査も近く始めることであるから調査小票の欄外の記入なども爲さねばならぬ。
一年の計は一月にあるのですから今から其の準備をして今年も亦立派な調査を造りませう。

春季調査の作物と果實 其の調査期及報告期

作物の種類	調査期	報告期限
大豆	自三月	五月十日
小豆	自三月	五月十日
粟	自三月	五月十日
燕麥	自三月	五月十日
ナタ	自三月	五月十日
エンドウ	自三月	五月十日
ソラマメ	自三月	五月十日
ジャガイモ	自三月	五月十日
タマネギ	自三月	五月十日
キャベジ	自三月	五月十日
イチゴ	自三月	五月十日
ブドウ	自三月	五月十日
カブ	自三月	五月十日
大根	自三月	五月十日
ツケナ	自三月	五月十日
ホーレン草	自三月	五月十日
キ(備後其の他)	自三月	五月十日
七島	自三月	五月十日
コリヤナギ	自三月	五月十日
スリ	自三月	五月十日

肥料作用物	レクシユク モクシユク ソラマメ及エンドウ 其の大豆
桑	刈刈刈刈
茶	刈刈刈刈
實果	ネーブルオレンジ ナツミカン 其の他の柑橘

六月末日 七月五日
收穫時期 八月三日

一、二、三月報告表の注意

一月末日及二月分、三月十五日限迄の諸表の内特に注意を要するものを掲記すれば次の通であります（前號掲載を省く）

〔牛 乳〕

（市町村報告期一月末日限）

搾乳場数は年末現在に於ける場数を掲上し搾乳業者（牛乳營業取締規則に依る牛乳營業者）と農家其他に區別して調査掲上するのですが農家にして個人又は組合組織に依り牛乳の搾取を

〔屠 殺〕

（市町村報告期一月末日限）

本表の屠場数は其の年内に於て實際に屠殺せし場所を年末現在にて調査し若し年内に休業せしものは場数へは計入せざるも休業に到る迄の數量及價額を調査の上掲上し其の旨は必ず備考へ説明するのであります。又屠殺は食用の目的を以て殺すものですから、家畜傳染病の爲撲殺したるものは之を掲上せざる様注意を願ひます。本表には検査済にて食用となるものを販賣用たると自家用たるとを問はず屠殺の種類毎に牝牡別に其の數量價額を調査掲上するのであります。尙數量は内臓及毛皮を除きたるものにて骨付の儘を計量するものです。頭數に於ては所轄警察署の調査に係るものと對比し誤りなき様に願ひます。若し一頭當り數量が甚しく僅少或は單價の甚しく高低ある場合は必ず備考に其の理由を記載する様

願ひます。

〔水産業者〕

（市町村報告期一月末日限）

調査の時期は毎年十二月末日現在でありますが季節的に従事し年末に従事しない場合でも其の年中に實際従事した者は其の年末現在に加へ調査するのであります。水産業者は實際に漁撈、養殖、製造に従事する者に限るのでありますから漁撈、養殖、製造以外のものは假令水産業の經營に密接な關係を有するものでも水産業者と見るべきものではありません。

又業主なりや被用者なりやは各個人に付業務を主宰經營するや又は業主の下に於て事務、技術若くは單に勞務に従事するやに依つて區別すべきものであります。

水産業者一人にして漁撈、養殖、製造の二以上を兼營する者に付ては其の主なる一方に記載するのであります。

〔漁 船〕

（市町村報告期一月末日限）

漁船調査で漁船とは（イ）漁業に従事することを目的とする船舶（ロ）漁場に於て自己の漁獲物の處理、製造に従事することを目的とする船舶（ハ）漁場より自己の漁獲又は其の製品を運搬する事を目的とする船舶を謂ふのでありますから其の構造、大小如何に關係なく右の三用途に使用せらるゝものは凡て漁船として調査するのであります。

新造船は其の年内に竣功したるものを、廢用船は漁用に堪えず其の年中に使用を廢したるものを調査するものでありますから前年末現在船數に本年中の新造船、廢用船を加除するときは本年末現在船數に一致する筈でありますから御注意願ひます。若し他町村との間に於ける賣買等に依つて一致しない場合には其の旨備考に説明するのであります。

〔遭難漁船〕

（市町村報告期一月末日限）

本調査は船籍所在地の市町村に於てその年中に發生したる遭難の事實に付調査するのであります。但し臨時報告として提出済の分も勿論含むのでありますから臨時報告の漁船遭難表と對照して誤りなき様御注意願ひます。

〔沿岸漁獲物〕

（市町村報告期一月末日限）

年末現在に於て一ケ年間に於ける總採捕數量及價額を當業者に付調査するのであります。但し本表に該當すべき事實ある場合は必ず水産業者表の漁撈の副業か副業かの孰れかに従事者が掲載される筈で互に相關聯すべきものでありますから御注意願ひます。

調査の場所は原則として漁撈業者の住所々在地の市町村であります。但し一時他町村に居所を移して漁業に従事する

場合には其の町村に於て調査するの
あります。

□遠洋漁業

(市町村報告期一月末日限)

遠洋漁業は其の地方に於て沖合又は
遠洋と認むる所に於て五噸以上の船を
以て沿岸と關係交渉なく漁撈をなすも
のを指すのであります。

従つて五噸未満の船を以て沖合又は
遠洋に於て漁獲をなしたる場合は遠洋
漁業ではなく沿岸漁業で其の漁獲物は
當然沿岸漁獲物表に計上するのであり
ます。

調査の時期、場所等に就ては沿岸漁
獲物と同じであります。

□水産養殖

(市町村報告期一月末日限)

水産養殖は其の養殖場所所在地の市町
村に於て年末現在に依り養殖の目的を
以てせらるゝものは凡て調査するので

あります。愛玩的に飼育するものに就
ては調査を要しません。

稲田に養殖するものは年末現在に於
ては養殖しないものも少なくありませ
んから別に其の年養殖した場數、面積
を調査するのであります。

同一場所に二種以上混養するものは
養殖場及面積に就ては主なる一方に之
を記載し收穫高に就ては各相當欄に記
載するのであります。

尙同一漁類を二回以上養殖したるも
のは場所及面積は一として調査し收穫
高は各別に調査するのであります。

養殖の場所及面積に就て前年と著し
く相違ある場合は其の理由を備考に記
載すべきであります。

□水産製造物

(市町村報告期二月末日限)

水産製造物は他より原料を仕入れて
製造すると否とに拘らず凡て製造する
地の市町村に於て調査するのでありま

す。従て假令甲地に於て原料又は半製
品を生産しても之を乙地に移出し乙地
に於て始めて製造品と稱するに至りた
るものは乙地に於て調査すべきであり
ます。

尙鰯粕の生産ありて鰯油の生産なき
もの又は製造品の其の原料に對し著し
く均衡を失せるものは其の事由を備考
に記載すべきです。

□公私有林野面積

(市町村報告期二月末日限)

本表は昭和二年末の調査を第一回と
し以後三年目毎の調査になつて居り、
本年十二月末日現在を以て第四回目の
調査をすることになつて居ります。即
ち年末現在に於て之を立木地と無立木
地に分ち、立木地は更に針葉樹林、闊
葉樹林、針闊混淆樹林、竹林に區別し
又所有關係として公有、社寺有、私有
に大別し公有は更に道府縣有、市町村
有、部落有、其の他の公共團體有に、

社寺有は神社、寺院有とに分ち、土地
臺帳面の地目面積の如何に拘らず現在
樹林状態をなせる箇所即ち山林又は森
林と稱することを得るものは之を立木
地とし、然らざる箇所即ち伐採跡地、
災害跡地、草刈地、放牧地等は無立木
地として各々其の實際面積を調査する
のであります。

尙調査上注意を要する点は、地上權
其の他土地使用又は收益を爲す權利に
依り立木を所有するものは土地所有者
の如何に拘らず立木所有者所屬の相當
欄に記載致します、又賣買に依り一時
的に立木のみを所有致したる場合は森
林の所有者とせず土地所有に依りて其
の所屬を決定致します、又部落、市町
村其の他の公共團體等の共有に係る林
木等に付ては各其の持分に依り部分林
と稱して國有或は縣有林野に私人が植
栽して其の樹林を共有とし、四官六民
等の一定の割合に係りまして分收する
ことに定めましたものに就ては其の分

收歩合に依り其の割合の分だけを私人
即ち私有の欄に計上致します。尙公有
林野官行造林、即ち市町村有林野に官
行造林をなせる場合には假令國と當該
町村との間に分收歩合の定めがありま
した場合は雖、この場合は其の地盤の
所有者たる當該町村有として計上すべ
きものであります。

□林野産物

(市町村報告期二月末日限)

本表の調査範圍は御料、國有、公有
社寺有、私有の林野及其の他に於ける
生産の全部を調査するのであります。
表中、樹實は單に林野に生産するもの
に限らず林野以外の宅地、畑等より生
産するもの例へば栗は栗畑の生産に係
るものをも合算調査するのであります
樹皮中の杉、扁柏等にありましては伐
採したる川材の事實と對照して均衡を
失なわぬ様注意を願ひたい、柴草は
林野は勿論林野以外の畦畔其の他より

採取し肥料又は牛馬等の飼料に供する
灌木、芝草類を調査し、木炭及薪の原
材積は伐採表の薪炭材と匹敵すべき筈
ですから誤りない様注意を要します、
筈は竹材を目的とする竹林より産する
ものは勿論筈收穫を目的として栽培し
たる筈畑より産したるものも調査しま
す。

□公私有林野伐採

(市町村報告期三月末日限)

伐採面積の調査の範圍は樹林状態を
なして居る林野の伐採面積の全部を調
査するを原則と致しますが、本表に就
ては公私有林野官行造林地に付ては
調査を要しません、又点狀擇伐はその
伐採面積の算定困難の爲調査を要しま
せんが伐採數量と價額は調査すること
になつて居ります、年々点狀擇伐し最
後に全部伐採した場合は其の全面積を
計上致し其の年以前の点狀擇伐に係る
面積は考慮する必要はありません、又

であります。

〔會社統計に就て〕

(市町村報告期二月十日限)

會社統計規則に依る會社票は當該會社の代表者が毎年十二月末日に於ける状況に基き調査し翌年一月十五日迄に其の本店又は主たる事務所々在地の市町村長に提出するのであります。清算中又は破産手續中の會社は調査の要がありません、會社票の調査に際し往々事業不振とか未決算を事由として會社票の提出を怠り又は資本金並損益關係事項の記入を缺く向もありませんが、會社の代表者に本調査の趣旨目的をよく理解徹底せしめ、尙調査票の審査に當つても一段の注意を致すと共に會社票の提出に際して重複又は調査洩れなき様充分注意をせられたいのであります。尙調査上特に注意を要する点を摘記すれば左の通りです。

- 一、會社票に記入する数字はアラビヤ

数字を用ひ、又金額は圓位に止むること、尙票中記入すべき事實のない欄には横線を施すこと。

二、商號又は名稱は登記したる商號又は名稱を、設立年月日は登記したる設立年月日を記入し、尙組織變更をした會社では登記したる組織變更の年月日を記入すること。

三、未決算を事由として積立金以下の欄の記入をなさざるものもあるも、新設會社であつて未決算のものは已むを得ざるも新設會社以外は法規上未決算のものなき理なるを以て會社票裏面の記載注意第八項に依り必ず之を記入すること。

四、主たる業務は會社分類に適合する様明確に記入すること、即ち

(イ)織物製造業にありては縮織物製造業、絹織物製造業等の如く記入すること。

(ロ)諸機械製造業にありては製造を爲す諸機械の中其の主なるものを

發行したるものゝみを記入し、他の借入金は之を記入しない様注意すること。

六、積立金の欄には最近の決算期に於ける一切の積立金現在額を記入するのであつて、最近の決算期より前一年間に積立てたる分を記入せざる様注意すること。

六、純益金、純損金は當該年度内の純損益金のみを記入するのであつて前年度よりの繰越益金又は繰越損金を加算しない様注意すること。

竹林に就ては拔伐と雖其の占領面積を調査致しますから注意を要します。伐採面積中用材と薪炭材との兩者を包含するとき各其の割合に依つて双方に區分計上し、又用材として伐採したるものゝ枝條や根株にして薪炭用に供するものは其の數量と價額を薪炭材の欄に記載すべきものですが此の場合には備考に其の旨を記載せられたい、桐は林地にあるものは面積をも調査し林地以外のものに對しては數量及價額のみを調査し備考に説明を要します、即ち伐採面積と伐採數量とは必ずしも其處に關係はなく従つて伐採面積として計上せる面積より伐採したる數量のみを調査するのではなく其の年に伐採した全數量を調査するのであります、仍つて一反歩當材積を算出して其の過大或は過少のものに付ては其の事由を説明せられたい。

尙單價は本表に限り山元相場乃ち立木のまゝ賣買するものに依られたいの

農具・機械器具製造業、紡織用機械器具製造業等のく記入すること

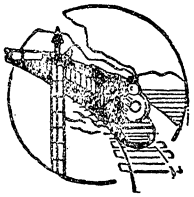
(ハ)菓子製造販賣業にありては製造又は販賣の何れを主とするやに依り菓子製造業、菓子販賣業等の如く記入すること。

(ニ)食料品販賣業にありては果物販賣業、酒類販賣業等の如く記入すること。

(ホ)物品販賣業にありては織物販賣業、藥品販賣業の如く記入すること。

アテならぬ数字

『数字なくして統計なし』……これは言ふまでもないことであるが、数字の觀念が個人々々の頭には相當に入つて居り乍ら、統計がアテにならない國は支那であらう。一例を云ふならば支那の軍人の數は殆んど明確でない。最近まで督軍と云ふ職名があつたが、一地方の督軍は自分の部下の兵隊の數を知らない。否知つては居るがそれは部下の師長とか連長とかインテキな數を報告して居るので督軍自身の知つて居る數と實際の數とは大きな差があるのである、閩兵式でもあると甲の師長は自分の部下を並べて督軍の閩兵をすまし、乙の師長は急いで甲の部下を一部分借りて整列させて數を合せるのである。即ち團練兵隊は二度も三度も閩兵をうけるが督軍は分らない。斯くして師長は何人分の給料を稼ぐのだから統計も数字もあつたものではない。



各地統計雑信

調査員諸君
何なりと奮
つて御通信
を願ひます

那珂郡支部總會

統計協會那珂郡支部では十一月二十四日野口村小學校に臨時總會を開催した。縣より齋藤主事補が出席、午前十時三十分協會副支部長の岡崎小瀬村長開辭を述べ次いで開催地の皆川野口村長並齋藤主事補の挨拶があつてから支部提出、研究事項に付き鋭意討議の上午後一時閉會した。當日の出席者は岡崎副支部長、皆川野口村長外各町村統計主任及支部幹事、野口村役場員一同等三十七名である。

久慈郡南部統計事務研究会

久慈郡南部統計事務研究会では十二

佐野村視察

新治郡志土庫村統計調査員十名は酒井助役、古渡收入役並吏員に引率され村會議員前統計調査員等と共に十一月十九日縣統計課を訪問廳内見學の後川崎統計課長より統計事務に就ての調査員の覺悟と共に村會議員に對してはその仕事に對しての理解援助方に付希望の挨拶ありて懇談の後那珂郡佐野村に於ける事務視察を爲すべく縣廳を出發したが午後には日立製作所並日立鐵山の見學を爲すとの事であつた。

染和田村視察

鹿島郡若松村統計調査員一行七名は十一月二十六日菅野書記に引率され久慈郡染和田村の統計事務を視察の途次統計課を訪ひ廳内見學、川崎統計課長の挨拶を受け記念撮影の上視察地に向つた。

中里村、賀美村視察

西茨城郡大池田村統計調査員一行八名は十一月二十六日高野助役、川松書記に引率され久慈郡中里村及賀美村の統計事務を視察、途次統計課を訪ひ廳内見學、川崎統計課長の挨拶あり記念撮影の上視察に向つた

月五日世矢村小學校に於て米生産統計

互審會を開催縣より高島屬が臨席した午前十時半柴田世矢村長の開辭に次いで久慈郡町村長會小祝幹事より統計の重要な所以の力説あり續いて高島屬より米生産統計に關する互審方法を詳細に述べ終つて各町村の持參せる米生産統計書類を互審し質疑應答を重ね午後三時半閉會した。出席者左の如し、小祝幹事(久慈郡町村長會)柴田村長、江崎書記(世矢)滑川書記(太田)加藤書記(磯初)大内書記(坂本)大内書記(久慈)川崎書記(東小澤)高野書記(西小澤)宇野書記(幸久)富永書記(久米)渡邊書記(佐郡)村田書記(山川)江崎書記(樂田)鈴木書記(河内)

農林省の統計實地調査

農林省では農林統計改善の基礎資料として農村の實情調査を企圖し各地方毎に一、二縣宛を指定して調査を行ふこととなり關東區では本縣と千葉縣が指定され去る十一月十日に農林大臣官房統計課より森松統計官補が來縣し統計課に於て川崎統計課長より管下一般の統計事務に就て説明を受け齋藤主事補の案内で直ちに久慈郡中里村に至り梶山村長及鶴田統計主任より村統計事務に就き詳細聴取の上同村第五區統計調査員生田目春吉氏の案内を以て同區内の各農家に就き米生産統計を始めとし一般農産物に至る迄夜間に亘り詳細なる調査を遂げ、翌十二日再び統計課に立寄り川崎統計課長と種々懇談の上鹿島郡高松村の一般統計事務を具に視察して退村したが翌十三日は千葉縣銚子市に到り主として水産統計に付いて調査された筈である。

統計主任者異動

- △(上は新任、括弧内は舊)
 - 昭和十一年十月廿七日 稻敷郡岡田村 岡野 秀 義 (鈴木準三郎)
 - 全 深谷 武 (栗原 寛一)
 - 全 十一月十九日 筑波郡島名村 鯉淵 誠 一郎 (飯塚竹三郎)
 - 全 十一月二十四日 東茨城郡鯉淵村 坂田太郎左衛門 (大島 淺吉)
 - 全 十一月三十日 行方郡立花村 小橋 龜之介 (今泉安之助)
 - 全 十二月一日 行方郡津知村 大川 順之助 (佐野 正志)
- ▽調査員異動
 - △(上は新任括弧内は舊)
 - 昭和十一年十月二十日 久慈郡久米村 成井 藤 衛 門 (成井 政次)

吐いたり。

蟲の口から千七百五十萬圓

昭和十一年の

養蠶統計

◊ 吐くも 前年より三百三十萬圓増加 目方にするると三百八十五萬貫

口から糸を吐き出す蠶!!其の蠶の昭和十一年度の調査が縣統計課から發表された。養蠶戸數は六萬三千五百四十八戸で蠶種掃立數量は三百八十一萬五千七五(内春蠶二百九十六萬七百二十六瓦、夏秋蠶三百八十一萬五千七五)繭の産額は三百八十五萬一千三百九十八貫、この價額は一千七百五十六萬八千五百二十八圓の巨額に達してゐる、その内春蠶は百八十二萬九千八百六十六貫(價額八百九十三萬四千二百七十八圓)夏秋蠶は二百二萬一千五百三十二貫 價額八百六十三萬四千二百五十圓)で、數量に於ては昭和八年の四百十三萬九千貫、同九年の三百九十八萬七千貫、同六年の三百八十九萬八千貫に次ぐもので累年比較中第四位の豊作である。これは本年に於ける夏秋蠶が氣候適順にして蠶兒の發育良好なりしと、繭

價の好況を見越し追掃の多かりしに依り掃立數量の増加したのに依るものである。これを

前年に比べると

掃立數量において夏秋蠶では十四萬六千二百七十一瓦(四分一厘)を増したが、春蠶では十七萬二千六百八十八瓦(五分五厘)を減じた結果差引二萬六千四百十七瓦(四厘)を減じた。かかる繭の産額においては春蠶で一萬二千二百四十六貫、夏秋蠶で三十七萬六千七百五十六貫、合計で三十八萬九千二百貫(二割一分三厘)を何れも増し、價額では總額三百三十四萬九千七百七十三圓(二割三分六厘)の著しき増収を見たのである。これは前年の蠶作の不良に基くものなるも、本年の夏秋蠶

に農家が如何にベストを盡したかは其の掃立の増加より見るもあきらかであらう。斯くして養蠶は近來に珍しい増収、米作も恵まれて

大に福々の農村を

現出し此處數年の不作を緩和し、各方面に景氣恢復とか、好景氣來るとか、赤字克服とか、黒字々々と云ふ様なうれしいたよりを聞く様になつて來た。農村こそ社會の原動力で、農村が富めば國も富み、購買力は加はり、思想も安定するのであるから、今年の様な年を續かせたいものである。

◇昭和十一年養蠶郡市別

郡市別	掃立			收繭			前年收繭高ニ比シ増
	總數	春蠶	夏秋蠶	總數	春蠶	夏秋蠶	
水戸	五、三三九	二、七九四	二、五四五	三、一三三	一、六三三	一、五〇〇	七五三
東茨城	五、六六三	三、三六六	二、二九七	三、七〇九	一、五〇六	二、二〇三	四三三
西茨城	二、九九五	一、〇四一	一、九一〇	一、七五三	六九七	一、〇五六	二四七
那珂	三、七七一	一、〇七五	二、六九六	二、七八五	六五七	二、一二八	七〇九
久慈	三、五五五	六、七〇二	六、二六九	一、〇九七	六三〇	四六七	五三〇
多賀	八〇〇	八、三三六	一、四九七	一、七六〇	六	八七七	九四二
鹿島	三、一八三	一、三九七	一、七八六	一、九八三	九三	一、八九〇	一〇三
行方	二、九六〇	二、〇三三	九二七	一、四八三	七五	七〇八	九八三
新治	九、八七五	八、九三九	九三六	四、七九〇	二、五三三	二、二五七	一、四〇〇
筑波	七、八〇六	四、七六九	三、〇三五	三、五三〇	一、五三三	二、〇〇〇	一、四〇〇
眞壁	六、三〇〇	三、九七六	二、三二四	三、〇〇〇	一、五三〇	一、四七〇	一、五三〇
結城	二、五八六	二、三三九	二、一五九	一、五〇〇	七五	一、四二五	六〇
猿島	二、七六七	二、四六六	三、二九七	一、五〇〇	七五	一、四二五	六〇
北相馬	六、七五八	二、九〇七	三、八五一	三、八五一	一、八八六	一九九	一九九
合計	六、七五八	二、九〇七	三、八五一	三、八五一	一、八八六	一九九	一九九

縣民1,575,862人

躍進茨城殖える人口

去年より増すこと二萬六千

増加の親玉は日立、助川

男より多い女の人口

十一月一日の人口調査

縣統計課では毎年十月一日現在を以て各市町村別に、先づ戸籍簿に依り本籍人口を調査し、更に出入寄留者を寄留簿其の他と照合して夫々其の者の住居の如何を調べ、十月末日迄に判明せるものに基き出寄留者と入寄留者との人数を加除し現住人口を調査することとしてゐるが昭和十一年十月一日現在では本縣人口總數百五十七萬五千八百六十二人（内男七十七萬九千九百六十六人、女七十九萬五千九百五十六人）で一方里に付平均三千九百五十五人に當るのである。しかして前年に比較すると二萬五千六百七十四人を増してゐるが、其の第一は多賀郡で七千九百九十一人の多きに達してゐる。此の増は日立助川の好景氣、所謂軍需インフレに集つたものが大部分で松原町の人絹工場の開設でも相當殖えたであらう。

本籍人口は百八十六萬六千百十二人で現住人口に比べると二十九萬二千五百五十人多い。是等の人は他府縣に出て働いたり勤めをしたり、軍人として在營在鑑したり、勉強の爲に學校に居たり、或は外國に行つてゐたりしてゐるわけで、更に此の本籍者を前年に比較すると、二萬六千三百九十四人の増加を示してゐる。此れは出生、死亡の差増で所謂自然増加である。現住戸數は二十八萬六千五百九十九戸で前年に比し千四百五十九戸を増してゐる。これも前記日立助川の關係で、此の郡でのみ千二百三十一戸も増してゐるのであるから、増加の殆んど全部を多賀郡で持つてゐると謂ふも過言ではない程だ。

現住人口で男より女の方が多いのは出稼する者や上級の學

校に入ると云ふのは、女に少く、男に多い爲、出寄留者は男の方がはるかに多數であるので自然残つてゐる者が少いが女の方は其の出る割合が少いのみならず本縣に製絲工場の如く女の勞働者を使用するものが縣外より募集するので、あべこべにはいつて來るからである。こうした工業の發展する程此の現象は著しくなるものだ。

五人で、外國に在る者は四千八百十八人に達してゐる。又爲すべからざる事をして、おかしな所につながられて所謂くさいめしを喰はされてゐると謂ふ者は七百三十人もあり此の内に十三人の女も加はつてゐるのである。

これと反對に十月一日現在に本縣に來てゐた多國人は七十一人で、朝鮮人は千二百六十五人、臺灣人は三人、樺太人は一人となつてゐる。郡市別人口戸數比較及之が町村別を示せば次の通りである。

郡市別人口及戸數

郡市別	本籍		計	前年ニ對スル増減	現住		計	前年ニ對スル増減	現住戸數	前年ニ對スル増減
	男	女			男	女				
水戸	25,321	25,321	50,642	77	3,960	3,777	6,737	97	13,105	160
東茨城	8,033	8,033	16,066	23	3,302	3,072	6,374	27	13,500	23
西茨城	47,821	47,821	95,642	1,000	7,179	6,173	13,352	1,000	33,642	1,000
那珂	66,129	66,129	132,258	1,001	6,742	5,741	12,483	1,001	31,377	1,001
久慈	22,026	22,026	44,052	23	3,263	3,240	6,503	23	17,202	23
多賀	50,925	50,925	101,850	2,488	7,885	5,397	13,282	7,888	37,202	7,888
鹿島	55,726	55,726	111,452	1,622	4,977	3,355	8,332	1,622	26,710	1,622
行方	35,443	35,443	70,886	1,133	3,731	2,598	6,329	1,133	19,241	1,133
稲敷	35,443	35,443	70,886	1,133	3,731	2,598	6,329	1,133	19,241	1,133

志筑	小櫻	小幡	柿岡	葦穂	戀瀬	林會	瓦部	園岡	石岡	玉川	田余	高濱	關川	志庫	安飾	佐賀	牛渡	美並	下津	上大	眞鋼
四七	五二	六三	七七	五五	五二	四九	四〇	三〇	三五	二六	五元	六八	四九	五五	五三	五八	四〇	四〇	四六	八五	一〇五
二、八七	三、一六	三、六八	四、一四	三、三三	三、五九	二、七〇	二、四九	三、五五	一、八九	一、五〇	二、八一	三、七三	二、三三	二、七四	二、七〇	三、七七	二、四三	二、九五	二、二九	五、三〇	五、二五
豐谷	三井	久島	板賀	小橋	谷張	合計	三浦	土浦	東家	中家	栗原	九重	榮重	山ノ莊	斗利	藤澤	都和	七會	新治		
三三	三三	五二	四〇	三三	九三	一六、五九	四元	四、〇六	八〇	六八	六四	五五	四九	四三	六五	五二	七五	四七	四七		
二、〇八	一、四七	二、四九	二、六六	一、四六	五、三三	一四、七〇	二、四五	一、九三	五、〇三	二、六九	三、八五	三、〇三	二、三六	二、三〇	三、六五	二、九三	四、〇八	二、五三	二、五三		
▽眞壁郡	合計	小野川	葛城	大穂	小田	北條	田井	筑波	菅間	田水	作岡	高祖	吉沼	上郷	旭名	島瀬	福和	十崎	長崎	鹿島	
一四、八六	八六、〇三	七四	四四	九五	八七	八二	四九	六七	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二	
二、〇八	一、四七	二、四九	二、六六	一、四六	五、三三	一四、七〇	二、四五	一、九三	五、〇三	二、六九	三、八五	三、〇三	二、三六	二、三〇	三、六五	二、九三	四、〇八	二、五三	二、五三		
長讚	大野	上野	鳥羽	村田	嘉田	黒崎	騰波	大寶	下妻	川西	河内	上妻	關本	大田	伊讚	五所	中河	養蠶	竹島	下館	
五三	七〇	五五	三〇	五三	五三	六三	四九	五五	一、三六	四九	四九	四九	四九	四九	四九	四九	四九	四九	四九	四九	
三、一四	四、〇五	三、三三	二、一四	三、一六	二、九八	三、六四	二、七〇	三、四二	七、四五	三、四七	三、一〇	三、一〇	三、一〇	三、一〇	三、一〇	三、一〇	三、一〇	三、一〇	三、一〇	三、一〇	

鹿島	豐津	豐郷	波野	中野	大野	白鳥	上島	新宮	鉢田	諏訪	徳宿	巴宿	沼前	大谷	夏海	合計	關本	平瀨	大津	關南	
五二	二五	二四	四〇	五五	一〇八	九三	五九	五三	九二	七四	六二	七一	六三	九五	六三	二七、八三	六八	五〇	二、二九	五、〇	
二、六四	一、七〇	一、四〇	二、二七	三、〇八	五、九三	五、〇二	三、二七	二、六四	四、五九	四、〇八	三、八三	三、七〇	五、一六	五、二五	三、三三	一四、六三	四、〇四	二、七三	五、九一	二、七七	
現原	立花	秋津	武田	要津	大津	大津	大津	大津	大津	大津	大津	大津	大津	大津	大津	合計	波崎	矢田	若松	輕野	息松
三三	五〇	七三	六七	三三	五五	七七	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	一六、七〇	一、九四	六、八	一、三〇	三、四	七、九
二、〇九	二、九七	三、九七	三、六五	二、六四	三、七〇	四、四九	一、九一	二、二四	一、九三	五、五九	二、六四	三、一七	四、五九	四、五九	三、一五	九、一五	三、六四	四、〇三	六、四五	五、六八	四、三三
牛久	壘崎	岡田	奥野	朝日	阿見	舟島	若原	木原	安中	鳩崎	沼里	江賀	江賀	江賀	江賀	合計	延方	手賀	玉造	小高	行方
五八	八四	七〇	五五	一、三三	一、三三	四三	五九	八七	三三	二二	二二	二二	二二	二二	一〇、六七	八四	三三	五五	四七	三九	四二
三、一六	五、一〇	四、三三	三、三三	七、七九	八、六三	二、四三	二、九一	四、六六	二、八五	一、〇四	一、五九	二、四〇	三、六八	三、六八	六、八七	五、〇四	二、〇九	二、九七	三、三六	二、三九	二、五四
▽新治郡	合計	本島	十島	金津	長津	源田	生板	大宮	龍崎	浮島	古波	阿波	伊賀	大賀	高田	太田	柴崎	根本	長戸	八原	馴柴
二〇、三〇	二〇、三〇	四四	四九	七四	三五	四四	六六	六六	一、〇八	三三	五三	五三	四三	四三	三九	三八	七三	四八	四八	五七	七二
一、五六	二、六四	二、六三	三、五〇	四、〇五	一、七三	一、七三	三、三九	三、三九	七、八五	一、八七	二、八六	二、九一	二、四六	二、四六	二、〇二	二、九六	三、七四	二、六七	二、七二	二、九七	三、八四

四七

四六

古里	三、八〇二	菅原	五、九	櫻井	六、四	北相馬郡	三、四〇〇
谷貝	四、七	下結城	五、六	香取	七、七	生	六、四
紫尾	六、七	豊岡	六、〇	五震	七、三	坂手	三、四
樺穂	七、三	西豊田	八、九	長田	四、五	内守谷	二、六〇
雨引	六、六	總上	三、八〇	八俣	五、〇	小井	四、八
眞壁	一、五五二	豊加美	四、八	幸島	七、三	大井	三、三〇
大國	五、四	蠶飼	三、三	猿島	一、六五	大野	三、三
新治	七、九	宗道	五、三	森戸	七、九	高野	三、七
小栗	五、四	玉宗	四、四	逆井	七、〇	高谷	五、二
合計	三、五七七	石下	九、二	生菅	五、五	守井	五、二
▽結城郡	二、八六二	豊田	三、一	七重	七、〇	高井	二、五
結城	二、八六二	五簡	四、一	井掛	六、九	高井	二、五
絹川	五、四	三妻	三、〇	芥掛	七、五	山王	四、八
江川	八、六	大生	四、四	弓馬田	四、四	高井	三、九
山川	七、五	飯沼	七、四	弓馬田	四、四	高井	三、九
上山川	七、五	飯沼	七、四	弓馬田	四、四	高井	三、九
中結城	七、五	飯沼	七、四	弓馬田	四、四	高井	三、九
名崎	六、五	飯沼	七、四	弓馬田	四、四	高井	三、九
安靜	八、〇	飯沼	七、四	弓馬田	四、四	高井	三、九
大形	四、〇	飯沼	七、四	弓馬田	四、四	高井	三、九
岡田	四、六	飯沼	七、四	弓馬田	四、四	高井	三、九
大花羽	三、六	飯沼	七、四	弓馬田	四、四	高井	三、九

夏の園藝我等の味覺

王様は西瓜の七千萬貫

多賀に咲いたは百合の花



昭和十一年に於ける夏の園藝農産物の蔬菜及花卉(エンドウ、ソラマメ、インゲンマメ、キウリ、シロウリ、カボチャ、スイカ、マクワウリ、ナス、トマト、ハナユリ)の作付段別は合計五千七百五十七町九反で之が生産價額は二百二十八萬四千七百七十六圓で其の主要は何と云つても西瓜で六九五、二七六圓(七、二九二、五一二貫)次は茄子の四三七、六九〇圓(四、三五八、九五七貫)南瓜の三三三、九六七圓(二、九二九、四〇五貫)胡瓜の三二一、九七四圓(二、八八九、七九三貫)蕃茄の一四八、一〇四圓(一、三五五、五五七貫)の順序で、其の他にはソラマメ、シロウリ、マクワウリ、エウドウ、ハナユリ等があるが何れも十萬圓に達しない。

しかし之を前年に比すれば作付反別では合計四百町一反(零割零分七厘)を減じたが價額では、九萬三千二百六十三圓(零割零分四厘)の増加を來した、之は今年が災害の少なかつ

たのに依ると一般に陽氣が良かったのに依るものであらう。	今其の作付反別や收穫高を種類別にするに次の通りである。	
作付段別	收穫高	價額
エンドウ	一、八三三	三、三六八
ソラマメ	五、三三〇	八、五、六、五八
インゲンマメ	四、〇七、八	七、〇、一、三、五
キウリ	六、九八、三	三、二、九、七、四
シロウリ	二、二、九	八、五、二、八二
カボチャ	七、七三、〇	三、三、九、六、七
スイカ	一、三、九、七、七	六、九、五、二、七、六
マクワウリ	一、七、三、二	七、六、〇、一、一
ナス	一、五、三、八	四、三、六、九、七
トマト	三、九、三	一、三、五、五、七
ハナユリ	八、七	五、四、三、七
合計	二〇、三、八、一	二、二、六、四、七、七、六



冬も菜種の花が咲く 常春の房州へ

統計模範御宿町視察の旅

筑波郡久賀村統計調査員 關野忠吉

夏雲の上に富士ヶ嶺秀でけり

五〇

船橋にて千葉行きに乗り換へ、十時十一分千葉驛下車、よく舗装された本道を行くこと五六町、千葉縣廳に到り縣統計課に敬意を表して再び車中の人となる。これよりいよ／＼房總海岸線となる、五位あたり養老川に沿ふ一帯は沃野廣く、穂に出でし稲は極めて少なく、殆んどが晩稲らしい、我々茨城縣人には一寸奇異の感がある、また所々瓦焼く煙の蒙々たるあり、その土質の何たるかを直感せられる。姉ヶ崎あたりより景観とみに變り列車は波打際をひた走りに走る。

投網する半裸の人や夏の川

貝漁る海女の小笠や残暑照り

岸を離れて、遠く干潟に建てられし鳥居は、海神を祀れるならん、相摸連山は夢の如く、一葦海を隔てて呼べば應へんとす。また木更津あたり蓮田多く線路に沿ふ衾は殆んど蓮の葉に

懸案年を久しうせし、久賀村統計調査員の縣外統計模範町視察旅行も、

秋蠶晩秋蠶の端境の小閑を得て、過ぐる八月三十日豫て縣統計課より指示せられた千葉縣御宿町視察にと出かけることとなつた。當日羽田主任以下調査員十名藤代驛に集合、午前七時四十七分發上り列車へと乗り込む。大利根鐵橋にさしかゝる頃より、朝霧は隈なく晴れ渡り川原に飛び交ふ白鷺は翼も輕げに群れ遊ぶ。柏驛で船橋きの「ガソリンカー」に乗り換へると、暫く松林の間を車は疾走する高柳あたりより視野や

覆はれて數十町にも及ばんか。

あほられて葉裏の白き蓮かな

青堀を過ぐる頃より窓外に虫の聲頻りなり。

切れ次きにきり／＼す鳴く車窓かな

このあたり別荘多く近代様式の洒奢な建築が目につく。左窓遙かに鹿野山が望まれる、車中客あり、土地のものがらしく我等の爲めに説明大いにつとめてくれた人情の淳朴なるを偲はれて嬉しい。傳へ聞く鶯の棲むてふ鹿野山も今はその頂上に杉の大樹數十本を残すのみである、其の代償として自動車が埃を蹴立てて神野寺の門前まで通つてゐること、これも詮方ない時代の反映とやいはん。

上總湊の邊より、岸壁高きところ、線路を通じ眺望この上なく、恰も紺岩の水鏡、乗客は一齊に窓外に眼を吸はれて思はず絶景を稱ふ、總じて房總海岸線には遼遠多くその幾十なるを知ら

うやく展げ、車窓より吹き込む朝風はいと爽かに、朝の畑には里芋を掘る百姓が働いてゐる。このあたり穀畑は更に見られない、そゞろに大東京の近郊であるといふことを意識づけられる。

中でも里芋、薩摩芋最も多く、胡瓜、西瓜はすでに採りおへて、そのあとに白菜、大根などの二葉を出して居るのが眼につく、やがて右窓間近に船橋無線電信局の大鐵塔が見え出したこの頃車中誰やらが富士の巒姿を見つけてはしやぐ、皆々一齊にその方を見あげる東京灣上遙かに遠く裾雲を覆ふてゐる

す、一曲つくる處遼道あり、出づれば必ず一灣あり、灣に沿ふて町並び曲につれて漁村あり、町ある處海水浴場あり、村ある處漁撈豊かである。

窓涼し相摸連山指呼にあり

名にしあふ鋸山はその名の如く山姿まことに奇である、中腹は絶壁をなして岩崖稜々とも云はんか、やがて列車はその山の中に遡進する、數分を費して遼道を出で山を見あぐればこれはまた異なり、山の北面の突屹たるに比して、南面は鬱蒼たる樹木形容自ら緩らかである。富津那古あたりは枇杷の産出多く、臺地といはず、山の中腹といはず、寸地をも餘す處なく皆これを栽植してゐる。午後一時十五分北條下車驛より數町館山海岸に歩を移す。灣内水深くして汽船の碇泊せるあり、ヨツトの帆走するあり、見るからに壯快そのものである。天麗かに波靜なるの日は、富岳その靈姿を海に映すより、鏡

ヶ浦の別名ありと、右手緩やかに灣に沿ふて那古船形等の村落海を抱いて館山灣をなす、左方尖端に館山航空隊あり、洲の崎燈臺あり、海を隔て、遠く相摸連山に秀づるは伊豆の天城か、山裾は摸糊として雲に覆はる、近く町の東端なる丘陵を城山といひて、里見家の城趾とか、眼を轉じて北方翠巒相連なる處富の山あり、これ八犬山縁の地である。里見家ありし世の榮華を偲びつゝ再び車中の人となる列車は避暑歸りの人で一杯である。

涼しさやヨツトは浪に見え隠れ

ボツボ舟見えたりけり土用浪

なぶらるゝネクタイ涼し磯つたい

陽燒額驛にどよめき休暇あけ

列車はいよ／＼内房におさらばして房州尖端を横断して外房へとひた走る九重千倉あたり太閤の茂れるあるを認める。

夕照に青く靡きぬ蘭田の風

太蘭刈る菅笠の娘は汽車に佇ち
 和田浦江見を経て大海に出る、こゝ
 には有名な仁右門島あり、其の昔石橋
 山の戦に破れた源右府公が勝山の城主
 安西景益を頼つて房州へ亡命した時、
 この島に幾日かを遁れたと傳へられる
 處で、島には島主の誠忠を賞で、永久
 に所領とする頼朝公の御墨付を頂戴
 してゐるといふ。次が鴨川驛かねて案
 内の竹の屋旅館に旅装をとく、一風呂
 浴びて宿の浴衣にくつろひだ旅の気分
 はまた一入である。

翠巒の嶺々を去來や夏の雲

ペランダの海風に佇つ浴衣かな

明日の行程にあまり夜更しは禁物と
 十時過皆夫々寝に就く、あけさしの二
 階に潮風は蚊帳を波うたせて涼しさい
 はん方なく、折柄十四日の月は仲天に
 懸つて、そゞろに游子の心はせきたて
 られる、眠らんとすれど眼はいよ／＼
 冴えて來るばかり、まゝよと起き上り
 階下へ行つて宿の烙印ある下駄をつゝ

かけて潜に出る、ひとり波打際を逍遙
 さすがは外房、浪も相當大きくやゝと
 もすれば足をさらはれさうである、町
 はづれにある鴨川橋の上に来て袂を吹
 かれつゝ心ゆくまでひとり南國の町の
 夜の情緒に浸りつ傾く月に宿へ歸る。

.....

潮風の孕む袂や夕涼み

月を背に山影妻き闇さかな

潮風に濡れて汀の月更くる

潮騒や旅愁の蚊帳に夜もすがら

宿惜しみ月の汀を往き戻り

あけさしの戸に麻蚊帳の涼しさよ

ビールの座鴨川音頭幾そたび

玫瑰や宿下駄すて、砂踏めり

波の音に旅寝の夢破られて眼を覺ま

せば、夜はしら／＼と明けそめつゝあ

り、欄に倚りて黎明の海洋に眺め入る

東天は次第に薄紅色に彩られ、やがて

日輪は遙かの山の端に赫灼として耀き

渡る、莊嚴とはまことこの事をやいは

ん、やがて女中の案内に沐浴する、朝

湯の爽氣はまた格別である汽車の都合
 で急ぎ朝食をすまして宿を辭す、アス
 フアルトの路を驛に、八時の列車で小
 湊に向ふ誕生寺は俳僧日蓮の有縁の地
 また妙の浦は文部省より天然記念物に
 指定せられてゐる、一行は四人の船頭
 によつて船を出される、岩と岩との間
 を通つて漸く海洋に出る、波頭に乗つ
 た船は揺々として木の葉の如く、降る
 時は奈落の底に沈むよと思はれる、そ
 の間を船頭は「エンヤハー」の掛聲勇ま

しく汗だくの懸命である。漕ぎ行く事
 十數町餘り、明神島の附近に到り楫子
 は櫂を上げて舷を叩く、サー出ますよ
 と杓子に水を汲んで投ぐること二三回
 いよ／＼餌を投げれば清冽なる海水を
 透して、大鯛小鯛が、浮ぶ、浮ぶ、餌を
 やる度に歴々として數ふべく遂には鯛
 の飛沫か衣にかゝるといふ始末全く奇
 觀である折角こゝまで漕いで來ても見
 られないで歸る人もあるとの事に皆々
 大満悦、再び小湊驛に引返し車中の人

となる。

由來東西房總線には遼道多く其の數
 幾十なるかを知らない、驛と驛との間
 にはさまつた様に少なくとも二三、中
 には五つ六つも數へるのさへある、曲
 のあるところ岸壁突屹して海に面し、
 灣あるところ丘陵その背景をなして樹
 木蒼々天然の景觀を加へ、房總廻りは
 自然の映畫であると絶讃するに價する
 興津勝浦等を窓外に眺めつゝいよ／＼
 御宿驛下車、驛前には多くの自動車
 が居並んでゐる、其の中にこれはまたと
 も古典的な一臺のトテ馬車が、雄姿
 ?を堂々と現してゐる、よく舗装され
 てゐる道路を行くこと二丁計りにして
 町役場に着く、刺を通じて我等は二階
 會議室に案内されたが、これはまたモ
 ダンの建築、驛前のトテ馬車との「コ
 ントラスト」には少なからず奇異の感
 にうたれ、茶菓の接待をうけ御宿町勢
 一般を戴きやがて神定町長から統計一
 般に就き説明があり色々感想に付い

ても語られた、誠に敬服の致りである
 また卓上に山と積まれた統計書類を一
 つ瀧口主任が懇切に説明に當られる、
 特に主任の製作になるといふ字限耕地
 圖の如き、並大低の苦心で出来るもの
 ではない、すべての書類は立派に装幀
 されており、調査員優遇法等も是を精
 神方面に重きを置いて、町名譽職並の
 取扱ひをなし、また奉仕的勞務等は、

すべて日頃の勞苦に免じて、是を免除
 する等、致れり盡せりである。一同感
 激に滿されつゝ役場を辭して再び車中
 の人となり愈々歸途に就く統計模範の
 粹を求めてこれをわか参考資料となし
 同時に自然の風光に浴して心氣の轉換
 に資し身心ともに更生を計り得た今回
 の縣外視察旅行は誠に意義深き企圖で
 あつた。



新宿御苑拜觀の記

西次城郡南川根村

書記 小 沼 義 男

『當日は晴雨に拘はらず拜觀せらるべ
 し』との縣よりの嚴達に憂慮された前
 日の天候は片雲も無く未明の空に星は
 降る様に輝く、めぐまれた十一月十七
 日本村統計調査員一行十二名は早くも
 午前五時全員支障なく岩間驛へ集合、

五時四十分發車に乗つたが人の子一人
 見えない寂莫さだ、車の中央に頑張つ
 た吾々一行の心も話も既に帝都の空に
 走つて居る。茶目子の一人スチームの
 湯氣で曇つた窓硝子へ早速の落書、
 『南川根村特別仕立臨時列車』

土浦近く成つてやうやく朝日がさし初めの眺も美しい『あの山林の間の畑は何町何反歩位ひあるだろう』この水田は稲架の工合から見て反當何石何斗位か』等調査員の本能は至る處發揮される、愈々家達の中へ入つたと思つたらもう上野だ八時が五分前ぐつ／＼して居られない、早速圓タクを拾つて一臺六人宛都合十二人を二臺へ押込んで運轉手がこぼすことこぼすこと。

新宿一丁目御苑門前で先づ身の邊りを繕ひ緊張して受付を終る『向ふの休憩所でお待ち下さい』係官の指圖を受け十分程待つ中に他郡他町村からも約二百名程参集する『南川根の方は御見えに成りませんか』農林省統計課の森松統計官補殿だ種々同氏の御厄介に成り約一時間半に亘り苑内を拜觀の光榮に浴し更に同氏の案内にて農林省統計課を訪れた、既に縣廳よりも手續をして置いて貰つたので快く課長室迄案内される、吾々より一足先き高知縣の統

計關係の方七、八名がやはり統計課を訪問して居たので計らずも他縣の方とも農林統計を語る事が出来た、尙ほ課長殿の訓話中に茨城は高知の先輩である、茨城の統計は實に全國の模範であると訓された時、吾々一同は其の名譽を誇ると同時に責任の重且大なる事を

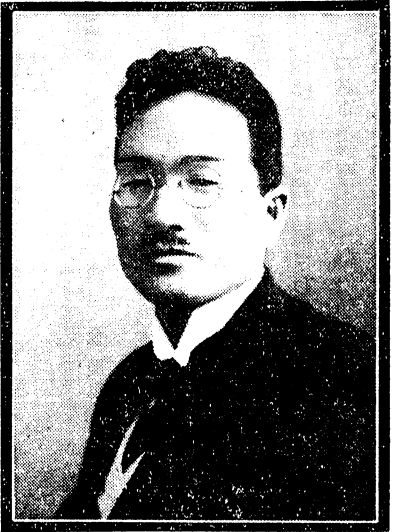
寄贈圖書

- | | | | |
|----------------|-----------|------------------|--------------|
| 下館町報 | 下館町役場 | 卸賣物價月報 | 九月分 |
| 和歌山縣勢 | 和歌山縣統計協會 | 商工大臣官房統計課 | |
| 統計界 | 岩手縣統計協會 | 昭和十年福岡縣泰誠統計書 | 福岡縣 |
| 昭和十一年學事統計要覽 | 愛媛縣 | 家禽統計書 | 全 |
| 資源 第十二號 | 資源局 | 全麥、交種統計書 | 全 |
| 第四回南洋羣島統計年鑑 | 南洋羣島 | 浪華の鏡 | 十二月號 大阪府統計協會 |
| 昭和十一年關東局人口動遷統計 | 關東局 | 統計 | 千葉縣統計協會 |
| 綿織物月報 十月分 | 商工大臣官房統計課 | いしずゑ | 十二月號 福岡縣統計協會 |
| 貸銀統計月報 全 | | 昭和十年度貯金局統計年報第四三回 | 貯金局 |
| | | 列國資源撮要第三號 | 資源局 |

悟り茨城統計の名を傷けてはならないと心に深く刻み付けられ午後二時本廳を辭し評議一決國技館の菊花大會を見物、更に夜の淺草を廻り思ふまゝ、大都會の一日を満喫して午後六時五十分華やかなネランサインに別れを告げ闇の鐵路を歸村の途に就いた。

本誌編輯囑託

富岡福壽朗氏計



水戸市北三ノ丸に住し、茨城タイムスを主宰經營してゐた富岡福壽朗氏は豫て病氣加療中であつたが、殆んど全快するに至りたる處病勢急變して十二月廿四日午後九時半自宅で逝去された。享年五十。氏は明治廿年結城郡總上村大字小島に生れ下妻中學を中途にして上京游學し明治四十三年常總新聞を経ていはらき新聞社に入り斯界に麗筆を揮ひ、當時茨城歌壇の「木星」を主宰し、大正六年東京日日新聞水戸支局長を経て同仙臺支局長となり昭和二年し名編輯振りを稱へられてゐたものである。告別式は廿七日自宅に於て行はれ水戸市神應寺に埋葬本會よりも其の訃を悼み花輪を供へ役員全部會葬した(寫眞は富岡氏)

投稿歡迎

- 一、種類に制限ありません(論說所感、體驗實記、質疑、文藝其の他)奮つて投稿されたい佳作には賞品を呈します。
- 一、用紙は成るべく原稿紙とし文字は明瞭に書かれます。
- 一、原稿には住所氏名を明記すること。(但し誌上の匿名は差支ありません)
- 一、原稿の取捨採否は編輯部に一任されたい。
- 一、三月號は二月二十日迄に送付のこと。
- 一、原稿は一切返送しません。
- 一、宛名は「茨城縣廳統計課内茨城縣統計協會編輯部」宛のこと



短歌

丹 四郎 選

題「冬雜詠」「雪」

〔賞〕 鹿兒島縣伊佐郡西太良村針持 西 登幾也

片空によどむ朝の茜雲雪となるらし風冷えにけり
旅遠く來にけるからに山々の雪の白さが心にしむも

○ 北相馬郡菅生村 倉持 保光

米生産實收高を調べつゝ螟虫の害のおほきに驚く
皎々と月照り明る空低く飛びゆく雁の羽音氣ざむし

川越市久保町 藤 介 晴儀

さりげなく語り來つれど妹の手の皸哀し今も目に見ゆ
ひとごころ空しきものか離りをればいつかかたみに疎くなり
(奉公の妹)

行方郡武田村 小貫 九郎 男

震ふる宵の寒さや立ちいでて馬にやるべき粥炊きにけり
野のはてにともし灯漏る家ありてこの雪の夜をまだ閉ぬらし

福岡縣粕屋郡席内村 江川 敦

東京市世田ヶ谷區野澤町 琴 柴 勝 三

山の雪うつす湖心のひそけきに鴨獵の銃ひびき渡れり
ささゝかの雪ふりければ幼子は櫛持ち出し聲あげ遊ぶ

國領市船見町 關 根 櫻 月

高々と夜空は晴れぬ遠つ峯雪明りつゝ更けゆきにけり
三日月のかけほのかなりひと本の楠の木末を渡る木枯

久慈郡黒澤村 金 澤 幸 一

粉雪に日は暮れはてぬ赤々とゐるりに燃ゆる櫓の火明り
ながくと川筋みえて大利根の堤の家は雪に埋るゝ

札幌市外南十一條伏見 松 田 白 樹

今日もまた雪降りやます納屋に入りひとりひねもす藁細工す
隣り家の手洗鉢の水割る音まこゆなり大霜の朝

宮城縣本吉郡歌津村 及 川 武

雪晴れし出家の軒に陽は伸びて雑木疎林の道明りせり
和歌山縣那賀郡池田村 福 田 富 一

北海道雨龍郡深川町 大 坂 禧 一

冬の日のぬくとき今朝は老いませる父上も來て麥蒔き給ふ

北見國宗谷郡稚内町 五十嵐 光治

北見山麓廣野を行く馬櫓のはつはつ見ゆる雪明りかな

大原村小原 來 崎 洪 太 郎

しきりに落ち來る軒の雪等納屋に聞きつゝ俵あみけり

東京市牛込區赤城下町 鈴 木 照

廣々し枯はちす田の夕寒み速根掘れるひとまだ居り

海ぎしの竹むらひくし潮風あからみてなる葉音のかたさ

大連市乃木町 川 本 幸 貞

更くるまゝに雪のつもれる大通り行く人まれにネオンうつせ

り

北相馬郡東文間村 背 雪 注 入

收穫のかたつきにけるこの朝をこころゆるびに寝過しにけり

高知縣香美郡山南村 岩 川 靜 可

向つ家に薪割る音きこえつゝゆふべ降り積む雪止むとなし

大阪市北區黒崎町 古 寺 七 五 三 二

雪しづれ池に落ち込む音にぶく折々立ちて今宵長しも

結城郡西豊田村 神 谷 草 二

雪の日は心安げく終日を袋をし編むと納屋に籠れり

新潟縣北蒲原郡岡方村 宮 城 洗

雪深き河下見ればあきらけく雪の竹むら河にたれたり

栃木縣芳賀郡中村 菊 地 探 琳

福藁の上によろ／＼と白雪のつもりて明けぬ今朝のわが庭

行方郡武田村小貫 境 草 風

ゆふぐれの畦の落穂を啄ばめる小鳥せはしも雪催ひの空

宮城縣東吉郡歌津村 高 橋 虎 太

雪晴れし道に冷めたく月しろの光り流るゝ夜更けなりけり

長野縣北安曇郡社村 遠 藤 佐 撫 朗

安曇野をただ一押に吹きまくるアルプス下の雪まじりの風

富山縣東礪波郡城端驛前 前 川 曉 花

うからみない寝しづまりし小夜更けて外の面しづけく雪降る

けはひ

行方郡延方村新宮 黒 須 一 雅

赤き實を食みこほしつゝ庭つ木に小鳥來て居り雪の朝を

久慈郡賀美村折橋 井 上 仁

霜降りし藪の小笹に日はさしてこの風凧を光りつゝ見ゆ

栃木縣那須郡狩野村 石 澤 喜 六

武藏野をただ一色に降り埋め今朝の白雪日に輝けり

次回

課題「早春雜詠」「梅」十首以内



前田猶春選

題『炬燵』『冬木』

うつぶせのうなじなまめく炬燵かな
 長野縣上伊那郡 河平 静泉水
 アンテナに夜の風鳴る炬燵かな
 北海道夕張郡 山田 政夫
 窓近く氷柱光れる炬燵かな
 同 札幌市外 松田 徳次郎
 古本を散らせし室の炬燵かな
 同 中川郡 原 泰二
 読み飽きて人形とあそぶ炬燵かな
 福岡縣粕屋郡 江川 孜
 演習の軍馬嘶く冬木かな
 同 同 人
 吹きある、砂塵の中の冬木かな
 多賀郡磯原町 長瀬 一風

神棚の灯し明るき大炬燵
 同 同 人
 我を迎へに出でし母見巾ゆ木立
 能登國羽咋郡 小笠原 進草
 雪晴の山を見てゐる炬燵かな
 同 同 人
 冬木坂登りつめたる薬師かな
 同 同 人
 白々と大根かけし冬木かな
 栃木縣那須郡 石澤 喜六
 夕曉の空を寝て見る炬燵かな
 同 同 人
 友の來て炬燵の上の獎棋かな
 同 同 人
 枯蔓のほそくとある冬木かな
 同 同 人
 山宿や冬木の風を夜毎きく
 同 同 人
 置炬燵淋しく人の老いにけり
 同 同 人

讀むとなく句集ひろげて炬燵人
 大阪市北區 古寺 七五三二
 留守居してひとりねむたき炬燵かな
 滋賀縣長濱町 小川 漫川
 焼鳥の屋臺をまねぐ炬燵かな
 同 同 人
 夜もすがら風鳴りやまぬ冬木かな
 同 同 人
 尿する僧に鳥たつ冬木かな
 同 同 人
 ゆくまゝに車窓あかるき冬木かな
 同 同 人
 山門を見あげつゝ入る冬木かな
 同 同 人
 うたゝ寝の枕に遠き炬燵かな
 同 同 人
 たちならぶ冬木映れる古江かな
 同 同 人
 こんな壯嚴の夕空がある冬木かな
 同 同 人

冬木影玻璃戸にぬくし揺をそる
 同 同 人
 嶺々の雪語りつゝ樵る冬木かな
 同 同 人
 鴉去りて冬木もすでに暮るゝ色
 同 同 人
 置炬燵涙にしめる一夜かな
 同 同 人
 たそがれの炊煙からむ冬木かな
 同 同 人
 賀状山とつみたる朝の炬燵かな
 同 同 人
 すさまじき月となりたる冬木かな
 同 同 人
 貼りかへて白き障子や冬木宿
 同 同 人
 動き居る冬木の上の尾根の雲
 同 同 人
 人も馬も黙々として冬木みち
 同 同 人

嶽の雪 讃ふ温泉宿の炬燵かな 内田六統生

芋の皮 炬燵の中に燻りけり 同 運田一笑

雪の夜の炬燵に孫と語りたり 熊本縣八代郡 米田正夫

定まらぬ阿蘇の煙りや冬木立 北相馬郡養生村 倉持保光

秀逸

雪しつる音に更けゆく炬燵かな 新治郡瓦倉村 増子よし女

馬葬る灯かけたる冬木かな 筑波郡久賀村東栗山 間宮陽夫

筆硯の塵をうとみて炬燵人 天(賞) 熊本縣八代郡葉木小學校 米田正夫

次の課題

題「残雪」「櫻」(花にてもよし)

秀逸 粗賃を呈す 縮切 三月五日



柳川

山中緋郎選

「初詣」

初詣で母とは別な娘の願ひ 熊本縣八代郡鏡町内田 齋藤正劍坊

初詣り鳩へ一皿豆を買ひ 行方郡武田村 小貫九區男

初詣坊も社殿に跪き 水戸市袴塚町 大高靜香

初詣ボチも後からついて来る 東茨城郡石塚町 田上光夫

初詣酔ふて歸つて叱られる 眞壁郡川西村 大久保 實

石段へ子を危ながる 西茨城郡大原村 來栖浩太郎

討匪隊武装のままの初詣り 満洲國開原殿島街 古市 贊六

戀人ともう逢つてゐる初詣り 行方郡大和村 内田六統生

初詣り何か安心した氣持 岩手縣花巻町 加賀谷 審三

○編輯部よりお願ひ

短歌、俳句川柳共縮切目を遅れる方がありますが縮切後の投稿は掲載出来ませんから必ず遅れぬやうお投稿下さい

茨城統計と

廣告の効果

『茨城統計』は縣下三百八十ヶ市町村及び各市町村の統計調査員約四千名は勿論縣下各種團體、會社、工場等に配付し、中央各省、道府縣へも漏れなく配付するものにて廣告の效果偉大なるものと信じます。

- 本誌の廣告料金は左の通りです。
- 特別(一頁(表紙表裏)) 金拾五圓
- 特別(半頁(同)) 金八圓
- 普通(半頁) 金四圓
- 普通(四分ノ一) 金貳圓

- 同一廣告を引續き二面以上おときは、一割五分五厘以上のときは二割の割引をします。
- 廣告に寫眞挿入又は木版を要するものは其の費用を別に申受けます。
- 廣告料は前納に願ひます。

茨城縣統計協會

茨城縣廳内

次號課題『表彰』

締切 二月二十日 葉書一人五句以内 宛名 茨城縣統計協會編輯部

初詣りやはり若さが目立つなり 北相馬村東文間村 堀越 正直

拍手も夫婦してうつ初詣り 大阪府南河内郡藤井寺町 藤井 眞

頬冠りして初詣り早いなり 東茨城郡石崎村 長洲 直男

出戻りに思ひ出深い初詣り 金澤市西堀川町 平田他 四郎

苦しみを越した楽しさ初詣り 千葉縣君津郡秋元村 島野 樂道

神前に額づく頃の屠蘇の酔 行方郡武田村 鳥次とり坊

父さんの厄年であり初詣り 名古屋市中區 内田 正敬

初詣親の許さぬ人と來る 福岡縣席内村 江川 孜

秀逸 富山縣城端驛前 前川 曉花

振り出しに戻つた氣持初詣

編輯後記

新年おめでたう。此のおめでたうも、本誌でもう三回申し上げることが出来たことは、ほんとにおめでたいことである。斯うしておめでたいを重ねて行くところに、豫期の発展が得られ『統計茨城』が待つてゐるのだ。

× ×

しかし此のおめでたい新年號に本誌創刊以來編輯囑託として事務を執掌した富岡福壽朗氏の計を傳へねばならなくなつたことは返す／＼も残念なことである。同君は温厚な眞の文人で、又人格者であつた、全く惜しい人が死んでしまつた。

十二月と云へば町村も縣も米生産統計調査の眞つ盛り、検査に、集計に、目の廻る様な忙しき、夜遅くまで算盤と首つびきのバチ／＼、疲れて歸れば其の儘ぐつたり、何として原稿等が書かれよう、それが終へてさあ一月號の準備といふ所で富岡君の計

だ如何にあわてたとて、一冊に纏める迄には並大抵ではなかつた。

×

それで本誌は、全然素人が記事を書き、素人が編輯、いや編輯と云ふよりは、次ぎ／＼並べたと云つた方がよい、御寛怒の程御ねがひする。

×

しかし次號よりは、元いはらき新聞記者たりし加藤敬愛氏が、富岡氏の後をうけて本誌に麗筆を運ばれることであるから、更に一新した雑誌が出来るであらう。

×

本誌が出ると、もうぢき田舎のお正月だとして舊の元日が恰も紀元節、これは神武天皇御即位の年と同じで、こんな珍らしい年はなかなか來ない、此の日附で農林大臣や知事や、統計協會總裁より又々表彰される人があるだらうが、此の意義深き日に表彰される人こそ、何たる幸福であらう。

×

正月が終へるともう春だ。また春季調査だ。調査票の欄外記入、調査原簿の加除整

理、耕地圖の訂正等、調査員として爲さねばならぬ準備がいろいろある、正月気分もまづそこ／＼にしてかゝらねば今年の調査も上々の結果は得られまい。一年の計は一月に在りとか云ふが農業に關する生産統計で春が此の一月に當る譯だ春の調査が遺憾なく出来れば夏も秋も冬も容易に調査が行へる譯だ。今年こそ／＼誰にも負けぬ立派な査調を爲し遂げよう。

昭和十二年一月十三日印刷
昭和十二年一月十五日發行
(隔月一回十五日發行)
一部金十錢
水戸市北三ノ丸茨城縣廳
茨城縣統計協會内
發行兼編輯人 川崎末吉
印刷所 水戸市南三ノ丸一〇七ノ二
柴印刷所
水戸市南三ノ丸一〇七ノ二
柴印刷所
水戸市北三ノ丸茨城縣廳内
發行所 茨城縣統計協會